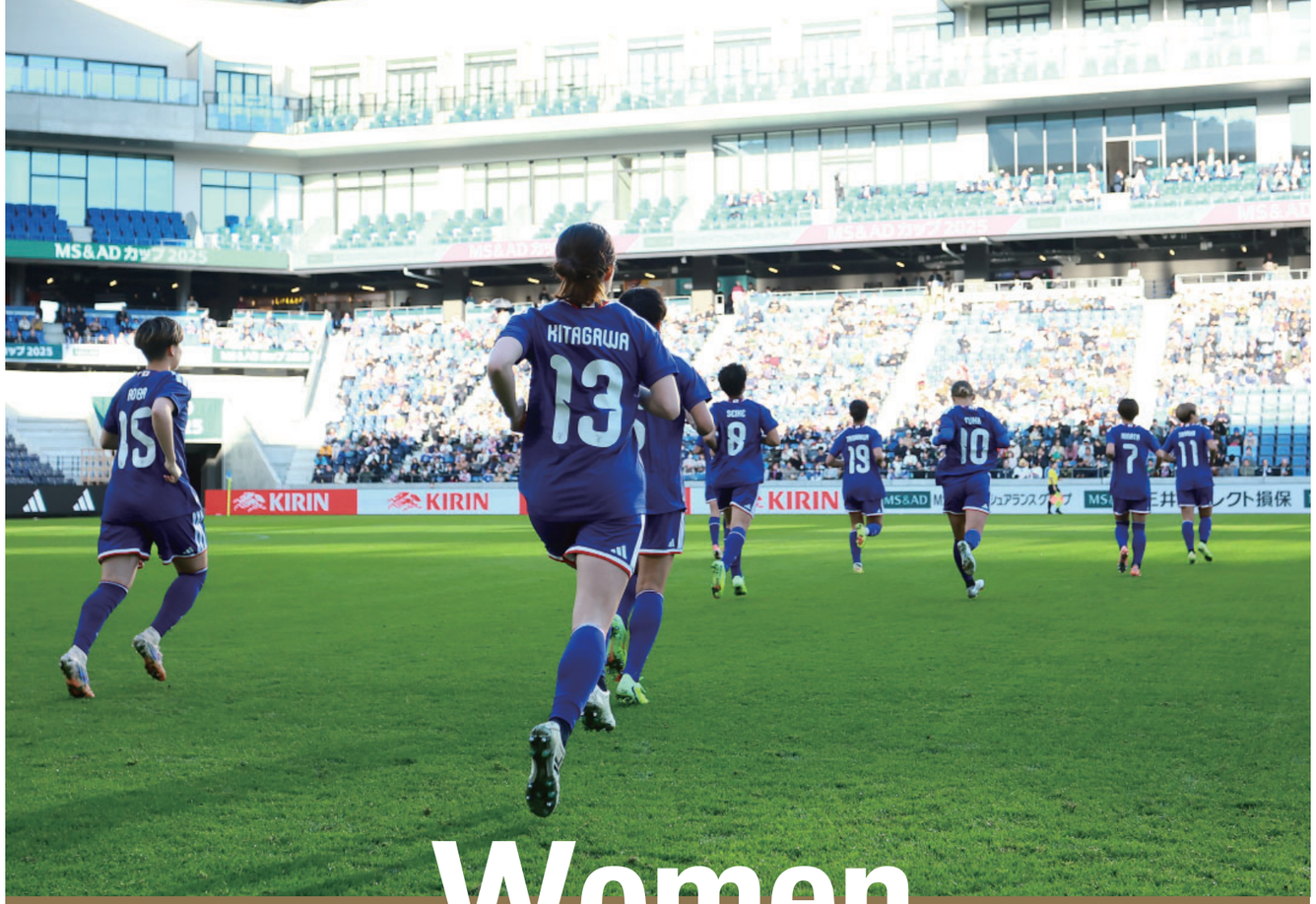


Women Empowerment

Report 2025

女性のエンパワーメント 年次レポート 2025

JFA .WE LEAGUE

CONTENTS

03　ごあいさつ
04　女性のエンパワーメント原則（WEPs）とは、WEPs の 7 原則
06　署名の背景・目的
08　女子サッカー発展のために WEPs 年次レポートが果たす役割
10　日本サッカー殿堂

活動報告

12　[原則 1] トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進
21　[原則 2] 機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃
37　[原則 3] 健康、安全、暴力の撤廃
40　[原則 4] 教育と研修
47　[原則 5] 事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動
51　[原則 6] 地域におけるリーダーシップと参画
53　[原則 7] 透明性、成果の測定、報告
54　女子サッカー TOPICS

本レポートの作成にあたり

2020 年 10 月 23 日、日本サッカー協会（JFA）と日本女子プロサッカーリーグ（WE リーグ）は、国連グローバル・コンパクトと UN Women が共同で作成した「女性のエンパワーメント原則（Women's Empowerment Principles/WEPs）」に署名し、参加することとしました。

日本国内の競技団体の参加は JFA と WE リーグが初めてであり、WEPs に参加することによって女性が力を発揮できる労働環境・社会環境を整備することへの強い意思を示すとともに、サッカー界での女性活躍を推し進めながらスポーツ界を牽引していきたいと考えています。

署名以前より、また署名を契機として、さまざまな取り組みを行っていますが、特に 7 つの原則に従ってその取り組みを年次でしっかりフォローするために、年次レポートを作成することとしました。すぐに成果が出るものばかりではありませんが、取り組みを統合してパワーを持って推進していくこと、取り組みを内外に明示すること、成果や課題をフォローしていくことを目的としています。

署名した 2020 年をゼロ年として、年次レポートを作成し、発信してきました。こうした形で作成することで、このトピックに関してまとまった形で発信でき、サッカー界の皆さんに届け、お伝えすることができた実感がありました。

今回、5 年目のレポートを作成しました。全国の役員改選等が少ない年で大きな変化はありませんでしたが、取り組みは様々に進んでいます。サッカーファミリーの中でさらに広がりと深みを求め変化につなげていきます。

本誌では、活動時もしくは 2025 年 12 月現在の所属や役職で掲載しています。

ごあいさつ

©JFA

宮本　恒靖

公益財団法人 日本サッカー協会
（JFA）会長
公益社団法人 日本女子プロサッカーリーグ
（WE リーグ）副理事長

日本サッカー協会（JFA）は、2020 年に「女性のエンパワーメント原則（WEPs）」に署名して以降、女子サッカーの競技的な発展にとどまらず、サッカーを取り巻く組織や人材、社会との関わりを含めた女性活躍推進に継続的に取り組んできました。

WE リーグにおいても、競技力向上やプロ化の推進に加え、スポーツを通じた社会的価値の創出を重要な柱として位置づけています。こうした取り組みは、日本の女子サッカーが競技と社会を結びつけながら、次の成長フェーズへ進みつつあることを示しています。日本の女子サッカーは、なでしこジャパンや育成年代の世界的な成果、リーグや大会環境の整備を背景に着実な成長を遂げてきました。その過程で、指導者、審判、運営などオフ・ザ・ピッチにおける女性の活躍が広がりを見せ、組織運営の健全性や意思決定における多様性が高まりつつあります。国際的にも女子サッカー改革が進み、競技機会や環境面での格差は着実に縮小しています。

私たちが目指すのは、性別によって役割や可能性が決められる社会ではありません。誰もがサッカーの「する」「見る」「関わる」にアクセスできる環境を整えることが重要だと考えています。WEPs を重要な指標の一つとし、教育・研修機会の充実や制度整備を進めながら、誰もが力を発揮できるサッカー界を目指していきます。

©WE LEAGUE

野々村　芳和

公益社団法人 日本女子プロサッカーリーグ
（WE リーグ）チェア
公益財団法人 日本サッカー協会
（JFA）副会長
公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
（J リーグ）チェアマン

2024 年 9 月に JFA、J リーグと共に日本の女子サッカーを含むサッカー全体の価値を上げていくことが日本サッカー界には望ましいと思い、WE リーグ 3 代目チェアの職を受けましてから 1 年が過ぎました。

昨シーズンはクラシエカップ決勝での 21,524 人のご来場をはじめ、リーグ戦においても選手達の積極的なイベント協力や各クラブの試合運営の努力により WE リーグ史上最高の年間入場者数 337,290 人を達成することができました。そして、今シーズンの開幕期においても 34,044 人のファン・サポーターの皆様に試合会場に足を運んでいただき、各地域で一歩ずつ WE リーグの輪が広がってきていると感じています。

2021 年の創設当初から取り組んできた「WE ACTION」は、5 年の歩みを重ね、新たな WE ACTION パートナーもお迎えし、クラブとリーグが共に地域の社会課題解決のための「WE ACTION DAY」を開催しています。この活動は世界的にも評価をいただき、2025 年 9 月に香港で開催された「World Football Summit」において「Female Leader Award for Leading Women in Sport」を受賞しました。

WE リーグクラブの世界への挑戦も始まり、AFC 女子チャンピオンズリーグは第 2 回大会の戦いが進んでいます。WE リーグのクラブがアジアの頂点にたてるよう WE リーグ全体でサポートしていきたいと思っています。

2027 年には FIFA 女子ワールドカップがブラジルで開催されます。ふたたびサッカー日本女子代表が世界の頂点を目指すうえでも WE リーグの競技力の向上は不可欠です。

今シーズンもひとりでも多くのファン・サポーターの皆様とともに最高の作品をスタジアムで作り上げ、ひとりひとりが主人公となりうる熱い試合を皆様に届けられるよう、今後も日本サッカー界全体で女子サッカー、WE リーグの魅力の普及に努めていきたいと思います。

焼家　直絵

UN Women
日本事務所長

2025 年、なでしこジャパンは SheBelieves Cup で初優勝を飾り、日本の女子サッカーに新たな歴史を刻みました。この成果は、スポーツが持つ可能性と女子サッカーの力を示す象徴的な瞬間でした。

ジェンダー平等と女性・少女のエンパワーメントのために活動する UN Women（国連女性機関）は、スポーツを通じた、またスポーツ界におけるジェンダー平等の達成に取り組んでいます。なぜなら、私たちはスポーツが持つ人々の心を動かす力を信じているからです。あらゆる人々と手を携え、スキルを育み、心身の健康を促進し、女性のリーダーシップを推進することは、社会全体の変革につながります。JFA と WE リーグは「女性のエンパワーメント原則（WEPs）」の署名団体として、日本のスポーツ界を牽引してくださっています。2026 年以降も、スポーツを通じてすべての女性と少女が自らの可能性を最大限に発揮できる未来を、ともに築いてまいりましょう。

女性のエンパワーメント原則とは？

[Women's Empowerment Principles ／ WEPs]

「女性のエンパワーメント原則（WEPs）」とは、企業がジェンダー平等を経営の核に位置付け、自主的に取り組むための行動指針です。持続可能で包摂的な経済成長に不可欠であるジェンダー平等を達成すると同時に、企業の経済的・社会的価値を高めることを目指しています。7つの原則は、「職場（社内）」「市場（マーケットプレース）」「地域コミュニティ（社会）」を網羅し、企業が社会的責任のある主体としてジェンダー平等に取り組むことを推奨しています。

2010年3月に国連グローバル・コンパクトと国連婦人開発基金（UNIFEM、現UN Women）が共同で策定し、2018年より、UN Women が事務局（https://www.weps.org/）を担っています。

WEPs の対象は、企業（民間、公共、政府系、組合、スタートアップ）、業界団体、商工会議所です。法令に基づいて設立された組織体であれば、規模や業界は問いません。署名、実施、報告の3つが基本的なステップです。署名をすることでコミットメントを表明し、7つの原則に沿った取り組みを行い、進捗状況と成果を自発的に報告することが期待されます。

WEPs は、2010年3月8日に策定された女性の活躍推進に積極的に取り組むための行動原則で、企業が現行の慣習や基準、行動を調査し分析するための実践的な手引きとなります。世界で WEPs に参加している企業／団体は 11,981（2024年は 10,268）で、日本国内では 2025年12月現在、342の企業／団体が参加しています。

WEPsの7原則

原則 1

企業トップによるリーダーシップ

本レポートでは → トップのリーダーシップによるジェンダー平等の促進

ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを重要経営課題として位置付け、マネージメントと事業活動に浸透させるには、企業トップのコミットメントとリーダーシップが不可欠です。CEO や経営トップ層が、企業の方針、経営戦略、日々の業務、そして組織文化に WEPs7 原則を取り入れることでジェンダー平等と女性のエンパワーメントを実現するという強い意思を社内外に示すと共に、自らがその取り組みをリードしましょう。

原則 2

職場におけるジェンダー平等

本レポートでは → 機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃

性別に関わらず、すべての労働者に対して公平で差別のない待遇を保障することは、国際的に認められた人権の基準の基本原則です。公平な職場環境は、多様な人材の獲得、定着率・満足度の向上、生産性の向上、より良い意思決定にも寄与します。方針、戦略、組織文化、慣行に存在するあらゆる形態の差別の撤廃は、WEPs における最も重要な取り組みの一つです。雇用形態による賃金、能力開発、職場でのキャリアの可能性の差をなくし、全ての従業員が少なくとも基礎的な生活保障とやりがいを持って働ける環境を整備しましょう。また、従来の性別役割分業意識や男性稼ぎ手モデルを前提とした制度、慣行、働き方の変革を通じて、男女が家事・育児・介護などの家庭内のケア責任を分かち合えるようにすることが求められています。

本レポートにおける各原則のステートメントについて

WEPs は企業やさまざまな団体を対象に各原則を定めていますが、JFA と WE リーグは一般的な企業とはやや異なる組織体であることを鑑みて、各原則の行動方針はそのままに、項目名称を実際のアクションに合わせる形で変更しています。

原則 3

従業員の健康、ウェルビーイング、安全

本レポートでは → 健康、安全、暴力の撤廃

雇用主は、性別に関わらずすべての従業員の心身の健康、安全、ウェルビーイングの維持と促進に重要な役割を担います。セクシュアル・ハラスメント及びあらゆる形態の暴力が放置されることにより、特に、女性従業員は大きなダメージを受けます。休職などで収入が減少したり、昇進の機会を逃したり、心身の健康を損なったりする可能性があるからです。従業員の欠勤や生産性の低下といった形で企業にも損失が生じます。適切に対応しましょう。

原則 4

女性のキャリアアップを可能にする教育と研修

本レポートでは → 教育と研修

女性が能力を伸ばし、経験を積み、昇進できるようにするためには、女性を対象とした育成プログラムと、すべての従業員を対象としたジェンダーギャップに関する教育の両方が不可欠です。女性の育成プログラムでは、キャリアアップを目的とした研修、ネットワーキング、メンタリングを組み合わせることで、管理職・役員クラスのパイプラインを強化することができます。従業員向けの教育では、ジェンダー平等の推進が自社の方針や事業とどう結びついているかを理解し、共通の理念と価値観を醸成すること、誰もが持つアンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）がいかに女性のキャリアアップの阻害要因になり得るかを理解し、対処できるようにすることが重要です。

原則 5

サプライチェーン・マネージメントとマーケティング

本レポートでは → 事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動

この原則は、企業が社内だけではなく、サプライチェーンを含む「市場（マーケットプレース）」や社会規範の形成に対しても責任のある主体であることを前提としています。女性と女の子に対するネガティブで画一的な固定観念は、ジェンダー平等の実現を阻む最も大きな要因の一つです。企業広告は、こうした固定観念や社会規範の形成に大きな影響を及ぼします。女性と男性、女の子と男の子が、従来の固定観念にとらわれず、現代的で多様な役割を担っている様子を表現することで、社会に深く根付いているジェンダーバイアスに変革を起こすことができます。インクルーシブ（包摂的）なサプライチェーン方針や、多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じて、企業はさまざまなビジネスパートナーとともにジェンダー平等を推進することができます。

原則 6

社会貢献活動とアドボカシー（啓発）

本レポートでは → 地域におけるリーダーシップと参画

この原則は、企業が社内だけではなく、事業活動を展開する「地域コミュニティ」や社会に対しても責任のある主体であることを前提としています。国際社会共通の目標であるジェンダー平等と女性のエンパワーメントの実現に向けて、企業が自らの資源や影響力を活用することが期待されています。近年、SDGs への関心の高まりとともに、多くの消費者が商品やサービスを購入する際に、「ジェンダー平等の視点に根差した事業活動を行っている企業」や「ジェンダー問題や女性支援に取り組む企業」を選んでいるという動向もあります。

原則 7

成果のモニタリングと報告

本レポートでは → 透明性、成果の測定、報告

WEPs に署名することによって表明したジェンダー平等と女性のエンパワーメントへのコミットメントを遂行する際に重要なのは、透明性と説明責任です。定期的に進捗状況や成果をチェックする仕組みをつくり、報告していきましょう。数値で表せない成果もありますが、測定することで、進捗状況の把握と次のステップにつなげるための評価が可能になります。また、積極的な報告や情報開示は、投資家、消費者、人材からの評価を高めます。

出典：『女性のエンパワーメント原則（WEPs）・ハンドブック』より

署名の背景・目的

女性活躍社会実現のために戦略的な取り組みが必要

2020 年 10 月 23 日、JFA と WE リーグは、スポーツ団体では初となる WEPs に署名を行い、女性活躍に対して、組織として積極的に取り組んでいくことを内外に明示しました。（参照：https://www.jfa.jp/women/we_league/news/00025566/）

「ジェンダー平等」は、長きにわたり、世界中で取り組み続けられている大きな課題です。日本においても、「女性活躍社会」が日本社会の中での長年の課題であり、その実現に向けて社会全体での取り組みがなされています。一方で、なかなか改善に進まない非常に根深い課題でもあります。グローバルジェンダーギャップ指数（右下表および次ページ下表参照）が示すように、**相対的に見て日本の女性活躍は、2025 年において 145 カ国中 118 位（2024 年は 146 カ国中 118 位）と非常に遅れており、依然として先進国の中でも最下位です。**思うような変化が起こりにくい中で、「もう女性活躍ではないのでは」という声も聞かれます。

この数字に着目するのは、日本社会に生きている私達自身が、普段あまり問題に感じていない傾向にあるのではないかと思うからです。「それほど特別に女性が抑圧されたり不快な思いはしないで過ごしている」「女性のスポーツ参加や社会参加が進んでいないが、他の国も同じようなものなのではないかと思っている」「むしろ日本は平均的あるいはそれ以上の社会なのではないかと思っている」…周囲と話しているとそんな人が多いように感じられます。しかし、この数字を見たときに、自分たちが当たり前と思っているこの状況が、世界中で同じ指標でフラットに見たときに、平均を大きく下回るということは大きな気づきであり、自分たちの当たり前を疑ってみる必要があると考えられます。

日本社会全体と同様、日本のスポーツ界においても、女性の人材活用は遅れています。スポーツ庁が出した「スポーツ団体ガバナンスコード」〈中央競技団体向け〉では、原則 2 の中で、「組織の役員及び評議員の構成等における多様性の確保を図ること」とされており、女性理事の目標割合（40％以上）が設定されました。変化を起こすためには、こうした目標割合の設定が必要であるということです。

サッカー界の状況も同様です。サッカーは、ある意味男性の競技の代表格とも言えるスポーツであり、その中で女性も楽しむ競技となってきた歴史があります。世界的に見ても、競技人口も関わる人も、その数に圧倒的な差があります。

世界のサッカー界においても、“Women in football”、サッカー界での女性活躍は、ホットトピックとして積極的に議論され、取り組まれています。社会的に女性活躍が進んだ国であっても、依然として大きな課題となっています。それでも世界でさまざまなパワフルな女性たちが積極的に取り組んでいる姿があり、非常に刺激になります。

日本サッカー界でも、女性役員、女性人材が不足しています。JFA は、中央競技団体として、スポーツ団体のガバナンスコードの目標達成に向け、取り組んでいく必要があります。社会的にこの課題は広く意識されており、さまざまなところで女性人材を積極的に登用しようという動きが近年増えてきているのは確かです。一方で、せっかく登用しようと思っても、候補者がいない、勧めても女性たちが積極的にそれを受けたがらない、という声も多く聞かれます。こうした側面も、この課題の典型的な部分であると言えます。それも含めて、戦略的な育成・強化とマインド変革が必要です。

▶ ジェンダーギャップ指数（2025）日本のスコア

分野	経済	政治	教育	健康	総合
スコア	0.613	0.085	0.994	0.973	0.666
昨年のスコア	0.568	0.118	0.993	0.973	0.663
順位	112 位	125 位	66 位	50 位	118 位

（世界経済フォーラム発表）

積極的かつ継続的な取り組み、サッカーファミリーとの共有

その契機の一つとして、JFA は日本女子プロサッカーリーグ「WE リーグ」発足を決め、2021 年 9 月に開幕しました。

WE リーグは、「Women Empowerment League」という名の通り、社会的意義を重視し、「女性活躍社会の牽引」を設立意義の一つに掲げ、女性役員・スタッフなどの配置目標も設定して取り組んでいます。「牽引する」とは、この難しい課題に対し、自ら具体的に実行して成果を出していき、もって社会に提示していくことを目指すということです。

数値目標を掲げ、一定の比率で人数を割り当てる制度、いわゆる「クオータ制」にはさまざまな議論がありますが、変化を起こすきっかけを得るためには重要な「ポジティブアクション」です。そうする一方で、それを確実に機能させるために、研修などのサポートを行っていくこととしています。ゴールは「配置すること」ではなく、多様性の意義を、サッカー界で積極的に実践することで、実感し、それを当たり前にしていくこと、そしてスポーツ界や社会へと発信していくことです。

社会や文化に深く根ざした非常に重大なトピックであるため、何かに取り組み始めたからといってすぐに変化が起き、解決に近づくような簡単なものではありませんが、確実に身をもって実行していくこと、積極的にトライしていくこと、粘り強く継続的に取り組んでいくこと、それを広くサッカーファミリーと共有していくことで、多様性の意義を実現し、実感できるサッカー界を目指していきます。

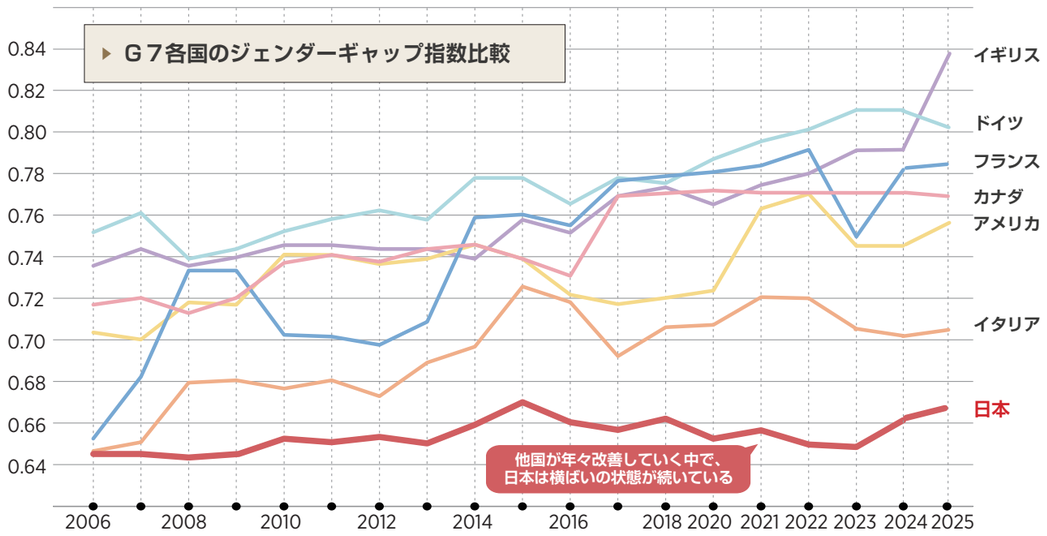
マイノリティの中の最大のマジョリティと言われる女性がこれを実現することで、真の多様性の推進、サッカー・スポーツのさらなる発展に寄与していくことが私たちの願いです。

▶ ジェンダーギャップ指数（2025）上位国及び主な国の順位

順位	国名	値	前年	順位変動
1	アイスランド	0.926	-0.010	-
2	フィンランド	0.879	0.004	-
3	ノルウェー	0.863	-0.012	-
4	イギリス	0.838	0.049	+10
5	ニュージーランド	0.827	-0.008	-1
6	スウェーデン	0.817	0.001	-1
7	モルドバ共和国	0.813	0.023	+6
8	ナミビア	0.811	0.006	-

順位	国名	値	前年	順位変動
35	フランス	0.765	0.781	-13
42	アメリカ	0.756	0.747	+1
101	韓国	0.687	-0.696	-7
103	中国	0.686	0.684	+3
117	アンゴラ	0.668	0.668	-4
118	**日本**	**0.666**	**0.663**	**-**
119	ブータン	0.570	0.651	+5
148	パキスタン	0.567	-0.570	-3

（世界経済フォーラム発表）



※ 2018 年公表まではレポートが公表されていたが、2019 年公表分は「GGGR 2020」となり、2020 年のインデックスとして公表されたため、年の数字が連続していない

女子サッカー発展のために WEPs 年次レポートが果たす役割

世界の女子サッカー発展の機運をつかむ

2023 年 7～8 月に行われた FIFA 女子ワールドカップオーストラリア＆ニュージランド 2023 は、ヨーロッパで開催された UEFA 女子 EURO（欧州女子選手権）2022 に続き、あらゆる面で史上最高をたたき出し、パフォーマンス面でも社会面でも大成功を収めました。「女子の」ということではなく「サッカー」として語られ、これまでの観客に加えて新たなオーディエンスを獲得したとされ、女子サッカーの価値が高まったことが証明された大会と評価されました。決勝に際して開催された FIFA 女子サッカーコンベンションでも、「この機運、そして新たに獲得したオーディエンスを失いたくない。今こそその時！開いた扉を閉じてはならない」ということが共有されました。

近年、ヨーロッパのビッグクラブを中心に、女子サッカーへの投資が始まっています。プロフェッショナル化、プレー環境が劇的に向上していることなどから、サッカーのレベルは上がり、多くの観客が集まる試合も出てきています。その広がりはヨーロッパだけでなく、アメリカの女子サッカーリーグの活況を筆頭に、南米などでもリーグのプロ化をはじめとした投資の促進が起こっています。それが代表選手、代表チームのパフォーマンスにも影響を与えるようになってきました。

なでしこジャパン（日本女子代表）は、2023 年のワールドカップでベスト 8、2024 年の第 33 回オリンピック競技大会（2024/ パリ）でもベスト 8 という結果でしたが、ピッチ内でのパフォーマンスはもちろん、リスペクト・フェアプレーをはじめピッチ内外で大会の成功に大きく貢献したと評価されました。なでしこジャパン、育成年代代表では、フェアプレー賞、個人賞獲得等、多くの個性豊かな選手たちが後に続いています。

一方で、FIFA ではこの成長を加速させるべく、女子サッカーストラテジーの第 2 弾、またクラブとリーグの発展をまとめたレポート “Setting the Pace” の第 3 弾を発行しています。世界の女子サッカーのこうした機運をつかみ、WE リーグとともに、日本でもぜひとも女子サッカー発展の好循環を生み出したいのです。

FIFA Women's Football Strategy:2024-2027
https://digitalhub.fifa.com/m/16fe7c8e9a285f15/original/FIFA-Women-s-Football-Strategy-2024-2027_EN.pdf

Setting The Pace – FIFA Women's Football Benchmarking Report
https://digitalhub.fifa.com/m/4220125f7600a8a2/original/FIFA-Women-s-Benchmarking-Report-2023.pdf

女子サッカー発展の歩み

世界的に、女子サッカーは 19 世紀に始まり、その後、人気を博していったとされ、女性初の試合開催は 1895 年と記録されています。しかし 1921 年、サッカーの母国・イングランドでは女性へのグラウンドの貸し出しを禁止とし、他国もそれに続きました。実にそこから 50 年後、1971 年にようやくこの通達が破棄され、そこから女子サッカーが再開。そして、国際サッカー連盟（FIFA）が初めて女子の国際試合を公認し、また各国協会で女子サッカーにも取り組むように通達。そこから約 50 年の歴史の中で、発展を遂げてきました。

日本でも同様に、明治時代末期から大正期に、全国の高等女学校において授業や運動会でサッカーを行った記録がありますが、その後は中断。兵庫県神戸市での女子同士の最初の試合が 1967 年、女子サッカー連盟ができて登録が始まったのが 1979 年です。男子サッカーからは後発ですが、多くの方の情熱と尽力によってここまで発展してきました。1989 年には日本女子サッカーリーグが誕生。それを基盤に、1991 年に初開催された FIFA 女子ワールドカップ（当時は FIFA 女子世界選手権）において、日本は第 1 回から 9 大会全てに出場している 7 カ国のうちの一つとなっています。そして 2011 年には、なでしこジャパンがワールドカップで初優勝。U-17 日本女子代表、U-20 日本女子代表がそれに続き、3 カテゴリーすべてのワールドカップを制覇した最初の国となりました。

世界の女子サッカーも日本の女子サッカーも、ほぼ同様の短い歴史の中で急速に発展を遂げています。全世界の人口の半分は女性ですので、女子サッカーにはまだまだ大きな伸びしろがあります。

また、文化・社会的に女性の社会進出が後進であったアジアの一部の国々でも、女子サッカーが確実に根づきつつあります。

女子とサッカーを考える上での 2 つのエリア

「女子」と「サッカー」を考える上で、2 つのエリアがあります。

「女子サッカー」と言うと、主に女子同士で行うサッカーが想定されがちですが、FIFA でも「女子が行うサッカー」と「サッカーにおける女性」の 2 つがあるとしており、この両方をカバーして発展させていく必要があります。

キッズ年代から大人に至るまで、男女ミックスの環境でサッカーをする人たちも多く、またその状況は年齢や時期、地域によって異なります。女子が行うサッカーを豊かにしようと考えたときに、より広く目を配る必要があり、よりさまざまな人たちに関わってもらう必要があります。日本サッカーをさらに広げていくためにも、女子サッカーの発展は欠かせません。

サッカーに関わる女性という意味で、女子サッカーのみならず、サッカーやスポーツに関わる女性にも目を向けていく必要があります。現状は、主に女子サッカーに関わる人材が想定されますが、それだけではなく、サッカー全体に関わっているさまざまな人材もいます。こうした人材を含めて、もっと関わる人を増やしていくことが重要です。

「意思決定機関にもっと女性を」と言われますが、どうすればもっと女性をはじめとする多様な人に楽しんでもらえるかを考えていく必要があります。そのためには、多様な視点やマインドが必要であり、ともすればそれは日本サッカーにおいて、これまで欠けていたものかもしれません。

©JFA

女子サッカーは日本サッカー全体に関わるもの

日本サッカー協会（JFA）は「JFA2005 年宣言」、また 2022 年に発表した「Japan's Way」の中で、サッカーファミリーを拡大し、世界一サッカーで幸せな国になることを目指すとうたっています。もともと男性と同じ人数を擁する女性がもっと関わっていくことで、それが実現に近づいていくはずです。

JFA 女子委員会が掲げる「なでしこ vision」の前文では、以下のように記しています。

「JFA の理念、ビジョン、約束」を実現するために、
そして、女子サッカーを文化にするために、
「世界のなでしこになる。」というビジョンのもと、
日本サッカーに関わる全ての人々が共有し、遂行する、
3 つの目標を定める。

女子サッカーが女子サッカーのためだけにあるのではなく、日本サッカー全体に関わるものであり、携わる全ての人と共有し遂行していく、ということです。また後文には、以下のように記しています。

そして、女性が輝く社会を
サッカー、スポーツのあらゆる場に女性が関わり、
ポテンシャルを発揮できる社会の実現を目指す。
女子サッカーがその固有の価値で、
日本・アジア・世界の、サッカー・スポーツ
そして社会の発展に貢献する。

女性が、意思決定機関ばかりでなく、サッカーのあらゆる場に関わっていくこと、そして持てる力を発揮できるようにしていくこと。男子サッカーのミニチュアではない女子サッカーの固有の価値を向上させ、伝えていくこと。それをもって日本サッカーに貢献していくこと。これらを実現していくことが求められています。

2024 年は、順調に向上している部分もありつつ、後退もあり、この課題の本質的な難しさをあらためて実感させられる一年となりました。

世界の女子サッカー発展の大きなポイントに立った今、この WEPs 年次レポートに示す情報が、より広く、多くの人に伝わり、広範囲での動きにつながり、先に掲げたあらゆることの実現に向けた一助となることを願ってやみません。

左から、野田朱美さん、半田悦子さん、高倉麻子さん

2025 年度の第 21 回日本サッカー殿堂に、特別選考として元日本女子代表監督の鈴木保氏と、黎明期に中心選手として活躍した 4 名の元日本女子代表選手が選出されました。

● 鈴木 保（元日本女子代表監督）

浦和市立高、立教大、日産自動車（現、横浜 F・マリノス）でプレーし、現役引退後は後に日本代表監督になる加茂周氏（2017 年日本サッカー殿堂掲額）のもとでコーチを務めながら指導力を磨いた。1989 年から日本女子代表監督を務め、チームは 1991 年に第 1 回 FIFA 女子世界選手権（後の FIFA 女子ワールドカップ）出場、4 年後の第 2 回大会ではベスト 8 に進出。また、初めて女子サッカーが種目入りした 1996 年アトランタオリンピック出場にも導いた。日本の女子サッカーをアジアの強豪に押し上げた功労者で、2011 年 FIFA 女子ワールドカップを制した、なでしこジャパンの礎を築いた。
代表監督退任後も、日興證券ドリームレディースを率いてリーグ 3 連覇を達成。ピッチ外でも JFA 女子委員会委員や日本女子サッカーリーグ事務局長を歴任し、女子サッカークラブの立ち上げに関わるなど、国内女子サッカーの基盤整備と振興に尽力した。

● 木岡 二葉（元日本女子代表選手）

1978 年に清水第ハスポーツクラブに加入し、1980 年から 1986 年まで全日本女子サッカー選手権大会（現、皇后杯 JFA 全日本女子サッカー選手権大会）の 7 連覇に貢献。その 7 連覇中に 3 度の大会最優秀選手に輝いた。
1989 年、日本女子サッカーリーグの設立に合わせ、清水 FC レディース（1990 年より鈴与清水 FC ラブリーレディース）へ移籍し、第 1 回のリーグ優勝を果たした。1995 年には同リーグのアシスト王（10 アシスト）に輝くなど、1996 年までに 116 試合に出場し 43 得点を挙げ、ベストイレブンにも 3 回選ばれた。その後スウェーデンでもプレーし、現役を引退。
日本女子代表には、初結成された 1981 年から選出され、アジア女子選手権（現、AFC 女子アジアカップ）やアジア競技大会、FIFA 女子世界選手権大会（現、FIFA 女子ワールドカップ）に出場。この大会から正式種目となった第 26 回オリンピック競技大会（1996/ アトランタ）ではドイツ女子代表を相手に 1 得点を挙げた。代表では 12 年間プレーし、国際 A マッチ 75 試合に出場し 30 得点をマークした。

● 高倉 麻子（元日本女子代表選手）

小学生からサッカーをはじめ、FC ジンナンなどでプレー。1985 年に読売サッカークラブ・ベレーザ（現、日テレ・東京ヴェルディベレーザ）に加入し、チームの中心として活躍。質の高いプレーで攻守両面において存在感を示し、1990 年から 1993 年までの日本女子サッカーリーグ 4 連覇に貢献した。個人としても 1989 年から 1998 年の間に同リーグのベストイレブンに 7 回選出され、1992 年と 1993 年には最優秀選手賞を受賞した。
2000 年の 1 年間、アメリカでプレーした以外は、日本女子サッカーリーグで 15 年間プレーし、通算 226 試合に出場（44 得点）。
日本女子代表としては、1983 年に 15 歳で初選出され、翌年 16 歳で国際 A マッチデビュー。FIFA 女子世界選手権大会（現、FIFA 女子ワールドカップ）に 2 回、1996 年のアトランタオリンピック競技大会に出場するなど、国際 A マッチ 79 試合に出場し 29 得点を挙げた。

● 野田 朱美（元日本女子代表選手）

中学生時代の 1982 年から読売サッカークラブ女子・ベレーザ（現、日テレ・東京ヴェルディベレーザ）でプレー。早くから頭角を現し、中心選手として活躍。全日本女子サッカー選手権大会（現、皇后杯 JFA 全日本女子サッカー選手権大会）連覇や、日本女子サッカーリーグ 4 連覇に貢献し、個人としても 1990 年に 16 得点を挙げリーグ得点王に輝くとともに最優秀選手賞を受賞した。1995 年から 2 年間は宝塚バニーズレディースサッカークラブでプレー。日本女子サッカーリーグのベストイレブンには 6 度選ばれている。
日本女子代表では、1984 年に日本女子代表に初選出され、歴代 3 位となる 15 歳 4 日で国際 A マッチデビュー。以降、約 12 年間日本女子代表の中心選手としてチームを牽引。1995 年の FIFA 女子世界選手権大会（現、FIFA 女子ワールドカップ）1 次リーグのブラジル戦で 2 得点を挙げ、日本のワールドカップ初得点および初勝利に貢献。また、1996 年のアトランタオリンピックではキャプテンとして出場しドイツ戦で 1 得点を挙げるなど印象的な活躍を見せた。

● 半田 悦子（元日本女子代表選手）

1980 年に清水第ハスポーツクラブに加入。1980 年から 1986 年まで全日本女子サッカー選手権大会（現、皇后杯 JFA 全日本女子サッカー選手権大会）で 7 連覇を果たし、1982 年には 17 歳で同大会の最優秀選手に選ばれた。
1989 年の日本女子サッカーリーグの設立に合わせ、清水 FC レディース（1990 年より鈴与清水 FC ラブリーレディース）へ移籍。第 1 回リーグの優勝を勝ち取るとともに、個人としても最優秀選手を受賞。同リーグでは 1996 年までに 131 試合に出場し 73 ゴールを記録した。
日本女子代表には、初結成された 1981 年から選出され、同年に初参加した第 4 回アジア女子選手権（現、AFC 女子アジアカップ）の第 3 戦（対インドネシア）で代表史上初となる得点を挙げ、しかもその 1 点が決勝点となり代表史上初の勝利に貢献した。その後も AFC 女子選手権やアジア競技大会、FIFA 女子世界選手権大会（現、FIFA 女子ワールドカップ）、オリンピック競技大会（1996 ／アトランタ）などに出場し、国際 A マッチでは 75 試合に出場し 19 得点をマークした。

- INTERVIEW - 半田 悦子さん

[殿堂入り - 女子サッカーの歴史をつないだ5人 -]

日本サッカー殿堂入りのお話を受けて驚き、自分自身が殿堂に値するのか、とまずは考えましたが、元日本女子代表監督の鈴木保さん、元日本女子代表の木岡二葉さん、高倉麻子さん、野田朱美さんという女子サッカーの 4 人の仲間とともに殿堂入りすることは、女子サッカーに目を向けていただいていることの証に思えました。それでも、私たち以前に、代表の活動費にも苦労された先達がいて、私たちの後には、世界一を手にした後輩がいます。なぜ私たちなのかを日本の女子サッカーの歴史の中でとらえようとしたとき、私たちは、女子サッカーをつないできた役割を担っており、それが評価され、殿堂入りを果たしたのではないかと思うに至りました。

私と木岡さんは日本代表の 1 期生で、高倉さんと野田さんとも長く代表チームで一緒に戦ってきました。そして保さんも代表に長くかかわっている監督です。アジア大会の正式種目になって、女子サッカーが認知されはじめた初期のころ、ずっと一緒でしたから、当時所属チームは違っていましたが、チームメイトのような感覚でした。オリンピックで正式種目になったときも、このメンバーみんなで出たいと思いました。

[ユースダイレクターの役割]

今、静岡で初の女性ユースダイレクターを引き受けて活動していますが、振り返ってみて、そういう仲間が身近にいたからこそ、ここまで長く続けることができたのかなと思います。

ちふれ AS エルフェン埼玉の監督を引き受けるまで、静岡から出ることはなかったのですが、清水で育っていた私にとって、女子サッカーは特別なものではありませんでした。まわりに支えられながらサッカーをやってきたのだろうと思います。今は、立場が変わり、ユースダイレクターとして、静岡県内の女子サッカーの強化育成普及、指導者養成に関わり全体を見る中で、支えてくれる人、サッカーの仲間がいることが大事なことだと改めて感じています。ボランティアで、一人何役もこなしてくれているスタッフがいて、そういう仲間がいることを知っているから、仲間を増やしていかなくてはいけないと感じています。

ユースダイレクターは、結果を出すのに時間がかかる仕事だと思っています。特に普及と指導者養成において、何年後かに、これをやってきたから成果が出たねということをやっていかなくてはなりません。はじめは自分の役割が何かぼんやりとしていましたが、今は、つなぎ役だと思っています。U-12 から U-15、そして U-18 といった縦のつながり、人のつながりをつくっていくことを意識しています。

[女性リーダーシッププログラムに参加して]

今年度女性リーダーシッププログラムを受講させていただき、女子サッカー界にこんなにパワフルで優秀な人たちがいるんだと純粋に驚きました。どちらかといえば父親がものごとを決定するような家庭に育ったので、男性が先頭をいくことが子どものころから当たり前で、自分でもその与えられた環境の中で 100%頑張ろうと思ってきました。サッカーの世界でも同じで、自分の与えられたエリアの中では一生懸命頑張ってきたのですが、リーダーシップやジェンダーの問題を学ぶうちに、そのエリアや枠組みを変えようとか、自分を変えていくための発信や行動をしてきていないことに気が付きました。一緒に受講していた皆さんのパワフルさもあって、自分自身も一歩踏み出していかなくてはならないと感じました。自分が行動し、先頭を切って行動を起こしたいと思っています。

[今後に向けて]

自分の力だけではできないことですが、静岡に WE リーグのチームがないので、実現できるよう、お手伝いできればと思っています。大げさかもしれませんが、サッカーをやっていると人生が豊かになります。人とのつながりもできていきます。今、子どものスポーツ離れや運動離れが進んでいるのですが、子どもたちをサッカーに巻き込んでいきたいです。そして、人をつなげ、サッカー仲間、スポーツ仲間を拡大することに貢献していきたいです。

活動報告

原則 1

トップのリーダーシップによる ジェンダー平等の促進

JFA なでしこ vision

「JFA2005 年宣言」を受けて、女子サッカーをどのように発展させていくかというビジョンである「なでしこ vision」を 2007 年に策定し、定期的に改訂を重ねています。

2015 年の改訂では、下記の女性活躍に言及する文言を追加。2022 年に新たに改訂を加え、現在に至ります。

JFA 公式 Web サイト
なでしこ vision
https://www.jfa.jp/women/nadeshiko_vision/

そして、女性が輝く社会を
サッカー、スポーツのあらゆる場に女性が関わり、ポテンシャルを発揮できる社会の実現を目指す。女子サッカーがその固有の価値で、日本・アジア・世界の、サッカー・スポーツそして社会の発展に貢献する。

JFA JFA 理事会

2024 年 4 月の役員改選、新体制において、JFA 理事会の女性理事数 4 割（15 人中 6 人）を達成しました。

JFA 公式 Web サイト
JFA の組織
https://www.jfa.jp/about_jfa/organization/jfa_structure/excutive_committee.html

JFA JFA 規則：妊娠 / 出産に関わる契約上の不利益の禁止

選手・スタッフたちが妊娠や出産に関わるところで契約上の不利益を被ることがないように、以下の事項を規則として定めています。

- 妊娠 / 出産した選手の各種権利の保障
- 妊娠 / 出産を理由にした契約破棄の禁止
- 妊娠 / 出産した選手に係る登録上の例外ルール
- 出産後にサッカー活動を再開した選手への配慮義務

FIFA では、2024 年 7 月、この規約に女性アスリートに加えて女性指導者についてもカバーする方向を提示しています。(REGULATORY FRAMEWORK FOR THE PROTECTION OF FEMALE PLAYERS AND COACHES JULY 2024)

FIFA 公式 Web サイト
REGULATORY FRAMEWORK
https://digitalhub.fifa.com/m/341fd8d9f981df59/original/FIFA-regulatory-framework-for-the-Protection-of-female-players-and-coaches.pdf

JFA JFA 女子サッカーデー

国際連合（国連）が定める毎年 3 月 8 日の「国際女性デー」を、2019 年より「JFA 女子サッカーデー」と定め、女子サッカー、女性活躍に向けて、「世界でいちばんフェアな国になろう」というスローガンを掲げ、社会面と普及面の両面で取り組みを行っています。47 都道府県サッカー協会にも呼び掛け、それぞれ活動をしています。

アジアサッカー連盟（AFC）でも、JFA に先立って、「女子サッカーデー」としてアジア全体で女子サッカーに関わる活動をする日としています。JFA として、その活動とも連動しています。

2025 年 3 月には、JFA のほかに、公益社団法人日本プロサッカーリーグ（J リーグ）、一般社団法人日本フットボールリーグ（JFL）、一般社団法人日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ）、一般財団法人全日本大学サッカー連盟（JUFA）、一般財団法人全日本大学女子サッカー連盟（JUWFA）、一般財団法人日本ビーチサッカー連盟（JBSF）、公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ（WE リーグ）、一般社団法人日本フットサルトップリーグ（F リーグ、女子 F リーグ）、一般社団法人日本障がい者サッカー連盟（JIFF）といった各連盟とも連携して実施しました。

JFA 公式 Web サイト
JFA 女子サッカーデー
https://www.jfa.jp/women/womensfootballday2025/

全国での女子サッカーデーの開催

毎年この時期に、全国の都道府県サッカー協会で女子サッカーデーのイベントを実施していただいています。

開催FA	開催日	イベント名
北海道	1月12日（日）	元なでしこジャパン・ドイツワールドカップ優勝メンバー 山郷のぞみさんに学ぶ「GKクリニック・講演会」
岩手県	3月8日（土）	JFA女子サッカーデー in 宮古 ファミリーサッカー体験会
秋田県	3月1日（土）・2日（日）	JFA女子サッカーデー2024秋田 in ニプロハチ公ドーム
山形県	3月15日（土）	スポーツやろうよ 山形県女子サッカー
栃木県	3月9日（日）	JFA女子サッカーデーinホンダヒート・グリーンスタジアム/キッズリーダー養成講習会（女子コース）
栃木県	3月9日（日）	JFA女子サッカーデー/キッズリーダー養成講習会（女子コース）
栃木県	3月9日（日）	JFA女子サッカーデー/ガールズ・レディースエイト
千葉県	11月30日（日）	JFA女子サッカーデー2025千葉 in 幕張
東京都	2月11日（祝）・22日（土）	女子審判研修_東京都レディースシニア（マザーズ）大会
山梨県	2月8日（土）	JFA女子サッカーデー in やまなし
新潟県	2月8日（土）・15日（土）	JFA女子サッカーデー2025 in 三条
富山県	3月2日（日）	コラーレTOYAMAなでしこサッカーフェスティバル2025
石川県	3月16日（日）	JFA女子サッカーデー2025
静岡県	2月23日（日）	JFA女子サッカーデー
岐阜県	3月8日（土）・9日（日）	JFA女子サッカーデー in 東海U-15女子サッカーフェスティバル2024岐阜
京都府	3月7日（金）・8月（土）	JFA女子サッカーデー in 第27回京都女子サッカーフェスティバル
奈良県	3月20日（木祝）	レディースガールズサッカーフェスティバル
鳥取県	3月2日（日）	JFA女子サッカーデー2025 鳥取ダイハツガールズサッカーフェスティバル
広島県	3月1日（土）	JFA女子サッカーデーイベント
徳島県	3月15日（土）	JFA女子サッカーデー ウォーキングフットボールイベント
愛媛県	3月1日（土）	JFA女子サッカーデー2025愛媛
高知県	3月2日（日）	JFAレディースサッカーフェスティバル
福岡県	2月1日（土）・16日（日）	JFA女子サッカーデー「走ってはいけない！ウォーキングフットボール」
福岡県	2月1日（土）・16日（日）	JFA女子サッカーデー「女性3級審判昇級研修会」
佐賀県	3月2日（日）	JFA女子サッカーデー/レディース&ガールズサッカーフェスティバル
長崎県	3月9日（日）	（1）親子で協力！サッカー運動会（2）ウオーキングサッカー（3）レフリー講座
宮崎県	3月16日（日）	女子サッカーデー・フェスティバル
鹿児島県	2026年2月7日（土）	JFAフットボールデー2025鹿児島県 in 姶良・伊佐女子サッカーフェスティバル
沖縄県	3月16日（日）	JFA女子サッカーデー2024沖縄　高校・大学交流サッカーフェスティバル

JFA マジカルフィールド Inspired by Disney ファミリーサッカーフェスティバル "セカンドタッチ" in 夢フィールド

3月8日、夢フィールドにて、「たった一歩で、世界が広がる。」というコンセプトでウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社と JFA が取り組む、女子サッカー応援プロジェクト「JFA マジカルフィールド Inspired by Disney」を開催しました。

- 日程：2025年3月8日（土）
- 会場：高円宮記念 JFA 夢フィールド
- 対象：小学1年生〜小学3年生
  （サッカー初心者、未経験者）

HER TEAM CUP 2025

2019年よりアディダス・JFA 共同プロジェクトとして発足した「HER TEAM」。女子中学生がサッカーをする機会が少ない状況を改善するために企画されたプロジェクトで、本プロジェクトから30チームが新たに誕生し、多くの女子選手がサッカーを続ける機会を得ました。5年目を迎えた2025年は、昨年に続き各チームが東西の各会場で合同トレーニングや試合を行い、仲間とのつながりをつくる場を提供しました。

東会場　●日程：2025年3月29日（土）
　　●会場：高円宮記念 JFA 夢フィールド
西会場　●日程：2025年3月22日（土）・23日（日）
　　●会場：J-GREEN 堺

JFA 公式 YouTube
アディダス・JFA HER TEAM CUP 2025 開催！
https://youtu.be/e15E-vg353o

なでしこリーグ　なでしこリーグビジョン・ステートメント

なでしこリーグは、2024年に設立35年を迎え、長らく日本女子サッカー界をけん引してまいりましたが、2021年に日本女子プロサッカーリーグ（WE リーグ）が開幕し、最高峰のアマチュアリーグとなりました。そこで、なでしこリーグでは、これまで築き上げてきた歴史を継承しつつ、これからさらに魅力的なリーグに発展させていきたい、というなでしこリーグに関わる人々の思いを象徴するビジョンとステートメントを作成いたしました。

なでしこリーグは、「普及」「地域」「多様性」をキーワードに、女性が人生の様々なステージにおいてサッカーとともに活躍できるリーグを目指していきます。

なでしこリーグ公式 YouTube チャンネル
なでしこリーグビジョン・ステートメント イメージムービー
https://youtu.be/Grd_xEE6O50

憧れが、すぐそばに（ヴィアマテラス宮崎）　©J.LEAGUE

笑顔で走って、サッカーが好きになる（ディアヴォロッソ広島）　©J.LEAGUE

JFA .WE LEAGUE　WE リーグ開幕

「これは新しい日本のキックオフだ」を合言葉に、2020年7月1日、WE リーグが設立されました。名称は「Women Empowerment League」。リーグを核として、関わる私たちみんな（WE）が主人公として活躍する社会を目指した、日本初の女子プロサッカーリーグです。

そして2021年9月11日、プレーでも、社会への貢献でも、世界一の女子サッカーリーグへまい進する「Yogibo WE リーグ」が開幕。北は仙台、南は広島まで、9都県から11クラブが参加。プレナスなでしこリーグからの9クラブと女子チームが新設された2クラブの編成でした。それまで男子チームのみを保有していた大宮アルディージャとサンフレッチェ広島は、WE リーグ設立をきっかけに女子チームを新設しました。

欧米の主要シーズンに合わせて秋春制を採用したのも WE リーグの特徴です。ヨーロッパでは、ジェンダー平等の観点から、多くの主要クラブで女子チームを保有する動きが近年急速に進んでいます。2024年12月の UEFA 女子チャンピオンズリーグの準々決勝、FC バルセロナ対レアル・マドリードでは9万1,533人の観客を動員しました。またアメリカでは、男女同一報酬（EQUAL PAY）に関する選手たちの運動により、アメリカサッカー連盟は、女子選手が代表チームで活動する際の報酬を男女同一にする内容の新たな労働協約に、男女それぞれの選手会と合意しました。世界において、女子サッカーの価値が高まっている中、すべての世代で FIFA 女子ワールドカップを制覇した日本女子サッカー界における、WE リーグに期待がかかっています。

初年度の2021/22シーズンは、INAC 神戸レオネッサが優勝。WE リーグアウォーズでは、個性豊かな衣装に身を包んだ INAC 神戸の選手たちが、WE リーグトロフィー「Women Empowerment Trophy」を掲げました。

3シーズン目となる2023/24シーズンから、セレッソ大阪ヤンマーレディースを迎え、12チームで開催しています。

WE リーグ初代チェア 岡島喜久子さん　©WE LEAGUE

©WE LEAGUE

.WE LEAGUE　WE リーグの名称とロゴ

WE リーグは「Women Empowerment League」の略称です。この名称には日本に"女子プロサッカー選手"という職業が確立され、女子が「サッカー選手」を夢見ることができる社会、関わる私たちみんな（WE）が主人公として活躍する社会を目指す、という思いが込められています。

また、ブランドモチーフの「●」（ドット）は、「サッカーの躍動感」「新たなつながり」「これからの日本」を表しています。

WE リーグの理念とビジョン

WE リーグは、「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」を理念としています。理念を具現化するために、理念へのコミットメントとして、リーグのみならず、一つひとつのクラブが、選手一人ひとりが、理念の推進に向けた意思表明を行っています。

理念の具現化には、リーグ戦・カップ戦の実施、女子サッカーチームの環境整備や選手育成といったサッカー事業と、社会に働き掛ける社会事業の２つの要素が不可欠です。

WE リーグでは、理念の実現に向けた３つのビジョンを策定しています。「VISION 1」であるサッカー事業と、「VISION 2」である社会事業の両輪を WE リーグの事業として定め、その２つのビジョンを支える事業基盤の構築を「VISION 3」として推進することで、理念の実現に向けて活動していきます。

理念

女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する。

［サッカー事業］
VISION 1
世界一の女子サッカーを。

［社会事業］
VISION 2
世界一アクティブな女性コミュニティへ。

［事業基盤］
VISION 3
世界一のリーグ価値を。

VISION 1
① 世界トップ水準の競技力、選手・スタッフの輩出
② 日本全国で女子サッカーの競技力のボトムアップの実現
③ 日本各地に女子がサッカーを楽しめる場を広げる

VISION 2
① 女性が起点となり、社会全体に前向きな変化を生み出す原動力になる
② スポーツの枠を超えて、個人、団体、企業の集まるプラットフォームとなる

VISION 3
① 社会面、競技面の発展を支える、リーグ基盤（財政・組織）を確固たるものとする
② リーグの本質的価値を事業成果としてあらわす
③ 多種多様な働き方を内包した、社会のロールモデルとなる組織を実現する

理念推進のために設定した参入基準

※原則２にも該当

リーグの理念を推進するために、下記の参入基準を設定しました（理念に関わる部分を抜粋）。

［ 法人を構成する人員における女性の登用 ］

当該クラブの運営にあたる法人を構成する役職員の50％以上を女性とする。同一法人内で複数のチームを運営している場合は、当該クラブの運営にあたる組織を明確に示すこと（入会から３年以内に達成すること）。

［ 役員における女性の登用 ］

当該クラブの意思決定に関わる者のうち、少なくとも１人は女性とすること（取締役以上が望ましい）。

［ トップチーム、アカデミーチームスタッフ ］

コーチングスタッフ（監督またはコーチ）の中に女性指導者１人以上を含むこと。

［ 託児施設の設置 ］

ホームスタジアムに授乳室および託児施設を設置すること。

WE リーグ選手クレド（行動規範）

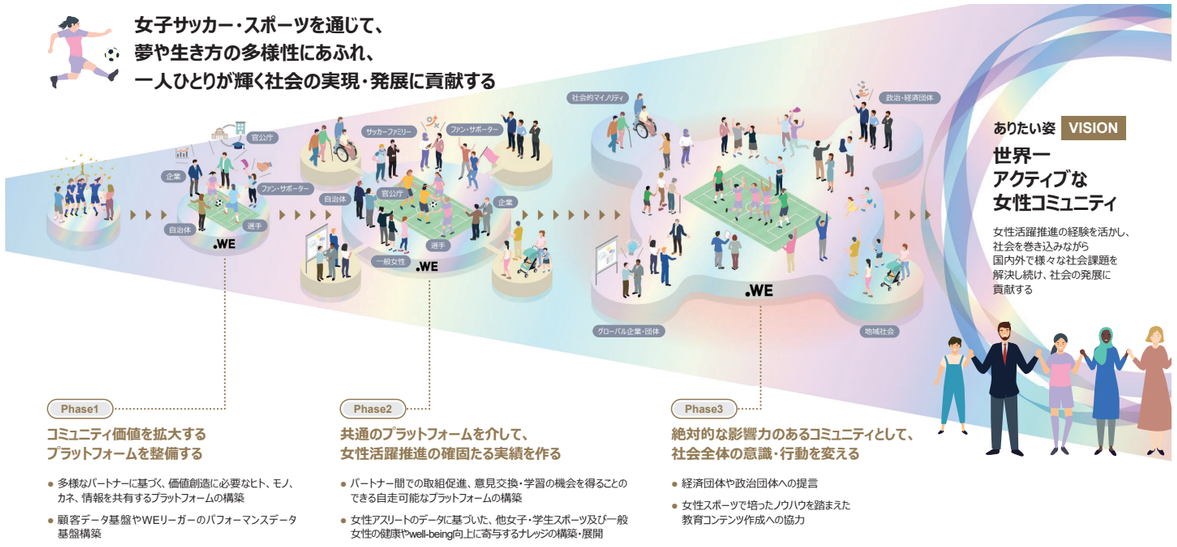
2021 年８月に、WE リーグの選手クレド（行動規範）を発表しました。岡島喜久子チェアと各クラブの選手代表者 11 人が集まり、３月８日の国際女性デー／ JFA 女子サッカーデーに実施した「第１回 WE MEETING」を皮切りに、クラブ内でも議論を重ね、５カ月をかけて自分たち自身で「みんなが主人公になるためにプレーする」という言葉をクレドとして決定しました。

この言葉は、各クラブのキャプテンが 2021/22 シーズンのホーム開幕戦の選手宣誓として読み上げました。

WE リーグ公式 YouTube チャンネル
クレド開発ミーティング〜クレドができるまで〜
https://youtu.be/9sJso6D7jvM

価値創造ストーリー

WE リーグが女性活躍社会を牽引するエンジンとして、社会変革の実現に向けた活動を支援するソーシャルインパクトパートナーシップ契約を KPMG コンサルティング株式会社と締結。「世界一アクティブな女性コミュニティ」を目指し、協働していく「価値創造ストーリー」を 2023/24 シーズンに開催した ALL WE ACTION DAY で発表しました。



優勝チームに贈られる「WE リーグトロフィー」

「一人ひとりが輝く社会の実現」を目指す WE リーグは、下記のように長年続いた考え方を壊し、「未来の可能性」「エンパワーメント」を象徴するトロフィー「Women Empowerment Trophy」を製作しました。

WE リーグトロフィーは、岡島喜久子初代チェアや日本の女子サッカーを代表するさまざまな世代の選手や女性たちが、自身でぶつかってきた見えない「ガラスの壁」をサッカーボールで壊すことから製作を開始。その壊れたガラスの破片を使って女性のガラス職人／デザイナーがトロフィーを完成させました。また、クリエイティブディレクター、プロデューサー、監督、カメラマン、音楽など、すべて女性のスタッフでトロフィーのメイキング映像を作成しました。

初代王者 INAC 神戸レオネッサに始まり、続く２・３シーズン目は三菱重工浦和レッズレディースが連覇。そして４シーズン目の 2024/25 シーズンは日テレ・東京ヴェルディベレーザが頂点に立ち、WE リーグトロフィーを掲げました。

© WE LEAGUE

WE リーグ公式 YouTube チャンネル
WE リーグトロフィー「ガラスの天井」を壊す
https://youtu.be/CLlsDanQgKc

.WE LEAGUE 理念推進日「WE ACTION DAY」

WE リーグでは、理念推進活動として「WE ACTION DAY」を実施しています。クラブや地域の特性を生かし、「多様性・ジェンダー」「教育・健康」「地域連携」の３つの軸をもとに、クラブ・選手・リーグが一体となって理念を体現するさまざまな活動を展開しています。

また、WE リーグアウォーズでは、特に印象的な取り組みを「MOST IMPRESSIVE WE ACTION DAY」として表彰しています。2024/25 シーズンは、アントレプレナーシップ教育の一環として、地域の小学生が地域振興を目的にホームゲームのイベントを一から企画・運営した「蘇我小プレゼンツ ホームゲーム丸ごとプロデュース」を実施したジェフ千葉レディースが受賞しました。

写真提供 WE リーグ

仙台市立高森東小学校「自分づくり夢教室」（マイナビ仙台）

「多様性」とは何か（三菱重工浦和レッズレディース）

NACK ５スタジアム大宮 インクルーシブスポーツフェスタ（RB 大宮アルディージャ WOMEN）

みんなの色でつなごう笑顔の WA（ちふれ AS エルフェン埼玉）

蘇我小プレゼンツ ホームゲーム丸ごとプロデュース（ジェフ千葉レディース）

『ＳＯＭＰＯ流子ども食堂』と一緒に地域をつなぐ（日テレ・東京ヴェルディベレーザ）

さがみはらさつまいも共創プロジェクト～練習場でのさつまいも栽培～（ノジマステラ神奈川相模原）

パルセイロ×楽しい防災～楽しく防災を学ぼう！はたらくくるまも大集合！～（AC 長野パルセイロ・レディース）

アルビレディース・女子サッカーを応援する人を増やそうプロジェクト！（アルビレックス新潟レディース）

セレッソ大阪ヤンマーレディースの選手とともに防災を学ぼう‼（セレッソ大阪ヤンマーレディース）

ウォーキングフットボール交流会（INAC 神戸レオネッサ）

サンフレッチェ広島レジーナ×スポーツ医学～女性の健康問題を考える～（サンフレッチェ広島レジーナ）

.WE LEAGUE「ALL WE ACTION DAY」

2022/23 シーズンまでは、試合のない週に各クラブが個別に実施していた「WE ACTION DAY」ですが、2023/24 シーズンからは新たな試みとして、全クラブが一堂に会して実施する「ALL WE ACTION DAY」へと発展させました。2024/25 シーズンは、「女子サッカーにおける、「する」「見る」「関わる」機会を増やし、多様性の枠を広げる」をテーマとした「2024-25 ALL WE ACTION DAY」を開催しました。

「女性や障がい者サッカーへのアクセスについて」をパネルディスカッションする第１部と「選手が語る『多様性』とWE ACTION DAY」と題して進められるトークセッションの第２部で実施された今回。音声ガイドや同時手話なども行う中で、それぞれの思いがしっかりと届けられる「2024/25 ALL WE ACTION DAY」となりました。

第１部は、ロービジョンフットサルの西山乃彩選手、デフサッカー・デフフットサル女子日本代表の岩渕亜依選手、一般社団法人日本障がい者サッカー連盟の北澤豪会長、そして、WE リーグのソーシャルインパクトパートナーである KPMG コンサルティング株式会社から麻生

WE ACTION DAY 一覧

クラブ名	実施日	イベント名	内容
マイナビ仙台	2024 年 12 月 10 日	仙台市立高森東小学校「自分づくり夢教室」	地域の子どもたちに「夢」を持つ大切さを伝えるために、県内の小学校を訪問し「夢先生」「サッカー教室」を実施した。
三菱重工浦和レッズレディース	2024 年 12 月 4 日	「多様性」とは何か	「多様性」とは何かという根源的な問いをテーマとした講義とワークショップを行い、選手が多様性についての知見を深めて人間性の成熟さを獲得するきっかけを作った。
	2025 年 4 月 2 日	レッズレディーススマイルサッカー supported by 三菱重工	小学生向けにサッカーやボール遊びを選手と楽しむイベントを開催。交流を通じて笑顔が広がり、クラブや選手の魅力を伝える機会を作った。
RB 大宮アルディージャ WOMEN	2025 年 12 月 7 日	サステナブル・スタジアム・アクション in WE ACTION DAY	NACK5 スタジアム大宮を通じ、スタジアムが地域との繋がりを産み、スタジアムをキッカケに地球環境について考え、また、WE リーグが掲げる「夢や生き方の多様性」の実現にも貢献するイベントを実施した。
	2025 年 2 月 11 日	WE ACTION DAY in NACK5 スタジアム大宮インクルーシブスポーツフェスタ	アーバンスポーツやパラスポーツなど 20 種類以上のスポーツを体験できるイベントを開催。さらに、NACK5 スタジアム隣接の大宮公園で「ごみゼロトレジャーハント」を実施し、スポーツと環境保全を融合した取り組みを行った。
ちふれ AS エルフェン埼玉	2025 年 12 月 24 日	みんなの色でつなごう笑顔の WA in 埼玉県熊谷特別支援学校	ホームタウン熊谷市の特別支援学校の生徒と、障害の有無に関係なくスポーツを通じて同じ時間を楽しみ、ありのままの自分で思いきり楽しむ素晴らしさを伝える取り組みを実施した。
	2025 年 2 月 1 日	みんなの色でつなごう笑顔の WA「サッカーを通してスポーツをする機会」	スタジアム近隣の加須市で活動する少年団 104 名とともに、選手発案によるサッカー教室を開催。プロ選手を身近に感じる機会を提供し、女子選手にとってはサッカーを続けるきっかけづくりを目指した。
ジェフ千葉レディース	2026 年 1 月 11 日	障がいとともに歩むサッカー交流会	障がい者チームの練習場所や試合相手不足といった課題解決を目指し、プロ選手との交流イベントを実施。社会参加や自信を育む機会を提供し、選手側には障がい者理解を深める場とした。
	2025 年 3 月 8 日	「蘇我小プレゼンツ　ホームゲーム丸ごとプロデュース」	蘇我小の児童と選手が協力し、ホームゲームをプロデュースするアントレプレナー教育を実施。児童が「ジェフ」を発信することで地域の関心を高め、街のアイデンティティ形成やジェフユナイテッドライフの実現につなげた。
日テレ・東京ヴェルディベレーザ	2025 年 11 月 2 日	西が丘に集合じゃ～女子サッカーをもっと多くの人に～	東京 NB 所属の木下桃香選手（当時）は、女子サッカーの魅力を“あたたかい雰囲気と居心地の良さ”と捉え、SNS で 100 日間発信し、誰もが気軽にスタジアム観戦できる企画を実施した。
	2025 年 1 月 11 日	『ＳＯＭＰＯ流子ども食堂』と一緒に地域をつなぐ	『そんぽの家』で実施される子ども食堂にベレーザ選手が参加し、高齢者・地域の子どもたち・選手の多世代交流を実現。楽しみながらつながりを深め、地域貢献につなげた。
ノジマステラ神奈川相模原	2025 年 11 月 4 日	さがみはらさつまいも共創プロジェクト（練習場でのさつまいも栽培）	練習場の土地を活用し、畑づくりから収穫・販売までの食育体験を提供。耕作放棄地活用の取り組みを広め、将来的には収穫したさつまいもで相模原市ブランド創出することを目指す。
	2025 年 11 月 17 日	WE ACTION MATCH ～オレンジリボン運動（子ども虐待防止を訴える運動）～	「子ども虐待のない社会」の実現のための活動。試合会場でも実施することで多くの来場者と共に、「WE ACTION」と「オレンジリボン運動」への理解を深める。
AC 長野パルセイロ・レディース	2025 年 10 月 20 日	パルセイロ×楽しい防災	地震や豪雨など災害が多発する中、楽しく防災を学ぶイベントを実施し、防災力の高い地域づくりを目指した。AC 長野パルセイロ・レディースが地域のハブとなり、連携を強化した。
	2025 年 12 月 12 日	Enjoy！サッカー Days！～日々は続く～	特別支援学校で選手と交流し、障がい者も観戦しやすいスタジアムづくりを検討・実行した。生徒や家族をホームゲームに招待し、「する」「見る」「関わる」機会を広げ、多様性を推進した。
アルビレックス新潟レディース	2025 年 1 月 7,9 日	アルビレディース・女子スポーツを応援する人を増やすには？試合会場でどんな取組ができるか？を研究してみた！	選手たちがさまざまな関係者の意見を聞きながら自ら考えることで、女子スポーツを応援する人を増やし、多様性あふれる人々が応援・観戦したくなるようなスタジアムづくりを目指す。
	2025 年 3 月 22 日	アルビレディース・女子サッカーを応援する人を増やそうプロジェクト！	選手が考案したアイデアを実行した。試合前はチラシ配りや 10 代向けグループ割企画で来場を促進した。試合会場では「VS 選手」チャレンジやファーストゴール予想、観戦ガイド配布を行った。試合後は的中者へ動画メッセージを送り、再来場を促した。
セレッソ大阪ヤンマーレディース	2025 年 10 月 14 日	C 大阪の選手が講師!?『防災ジャパンダプロジェクト』ヨドコウ桜スタジアムで選手から防災について学ぼう‼	8 月のキャンプ中に宮崎県で被災した経験を踏まえ、地域の子どもたちと防災を学ぶことを目的にイベントを実施した。スタジアム内で様々なプログラムを通じ、防災に関する知識を身につけた。
	2025 年 11 月 2 日	誰もがサッカーを見て関われる環境への第一歩	ひとりひとりが輝く未来の実現を目指し、障がいのある子どもたちに女子サッカーに触れる機会を提供した。選手にとっても多様性を学ぶ場とし、交流を通じて理解を深めるイベントを実施した。
INAC 神戸レオネッサ	2025 年 11 月 16 日	「ウォーキングフットボール交流会」	誰もが楽しめる「ウォーキングフットボール交流会」を開催した。年齢、性別、運動経験を問わず、障がいがあっても全員が平等に楽しくプレーし、交流を図った。
	2025 年 5 月 11 日	INAC を通じて、子どもも高齢者もみんなが集うスタジアムへ	INAC を通じて、子どもも高齢者も集うスタジアムを目指した。「みる」「かかわる」に焦点を当て、女子サッカー選手を身近に感じる機会を提供した。
サンフレッチェ広島レジーナ	2025 年 10 月 22 日	サンフレッチェ広島レジーナ×スポーツ医学～女性の健康問題を考える～	産婦人科医でスポーツドクターの能瀬先生とともに、女性の健康課題について考えるセミナーを実施した。地域とのつながりの中で、トップアスリートとして体と向き合い、大切な知識を得る場となった。
	2025 年 11 月 30 日	サンフレッチェ広島レジーナ×地域交流～レジーナの選手たちと家族といっしょに工作を楽しもう～	ひとり親家庭に焦点を当て、レジーナが家族で過ごす時間を提案するイベントを実施した。人との関わりの大切さや楽しい時間から得られる心の豊かさを伝える機会を提供した。

※マイナビ仙台が２０２５年５月 17 日に実施予定だった「TOHOKU 海にいいことプロジェクト×マイナビ仙台レディース感謝のクリーン活動 in セイホクパーク石巻　WE ACTION DAY」は天候不良のため中止

多恵さんが登壇し、「女性や障がい者サッカーへのアクセスについて」のパネルディスカッションが行われました。

西山選手や岩渕選手のキャリアを振り返りながら「サッカーをすること」で体験してきた困難や乗り越えてきた経験などが伝えられたあと、北澤会長や麻生さんから、それぞれの立場で感じることや考えが語られました。

続く、第２部は、全クラブから代表して 12 選手が登場。海堀あゆみ WE リーグ理事が進行する中、各クラブで実施されてきた WE ACTION DAY についてトークセッションが進みます。それぞれの WE ACTION DAY を振り返り、印象に残ったことや活動実施において意識したこと、今後に向けての思いなどが語られ、２時間にわたる「2024-25 ALL WE ACTION DAY」が幕を閉じました。

© WE LEAGUE

.WE LEAGUE WE ACTION MEETING

WE リーグは理念の実現に向けて、クラブ・選手やリーグパートナー、メディアと連携した ACTION を実施するための会「WE ACTION MEETING」を定期的に開催しています。

2024/25 シーズンまでに計 9 回の WE ACTION MEETING を行いました。4 年目となる 2024/25 シーズンのテーマは、「女子サッカーにおける「する」「みる」「関わる」機会を増やすための WE ACTION」、2024 年 11 月 27 日に、クラブ理念担当者、リーグ事務局、リーグパートナー、メディア、他競技関係者、47 名が JFA ハウスに集まり、グループに分かれてディスカッション。2025 年 5 月 28 日には、選手も加わった 51 名が、オンラインで集まりました。毎回、熱のこもった時間となる WE ACTION MEETING。女性アスリートがより輝くための施策実現に向けて、今後も活発な意見交換と議論を進めていきます。

WE ACTION MEETING 実績一覧

● 2021/22 シーズン
ジェンダー課題の発見とリスト化。ジェンダー課題ブック作成。

第 1 回 2021 年 12 月 14 日（44）
社会および身近に感じるジェンダー課題の共有

第 2 回 2022 年 1 月 18 日（45）
選手からのジェンダー課題発表

第 3 回 2022 年 2 月 22 日（41）
それまでに出た課題に対する解決のアイデアブレスト

● 2022/23 シーズン
ジェンダー課題解決アイデアの深化と実践。

第 4 回 2023 年 2 月 20 日（43）
①母親頼りが多すぎる問題
②日本の女子の自己肯定感が低すぎる問題
③女性は 10 代でスポーツやめちゃう問題
④女性コーチは約 3 割問題
4 つをピックアップし解決アクションの検討

第 5 回 2023 年 4 月 11 日（63）
第 4 回の検討をふまえ、各クラブの選手も参加し、チーム（スポーツ×パートナー×メディア）でできる解決アクションのレポート化

● 2023/24 シーズン
選手からでた課題をピックアップ。解決アクションを議論、実施。

第 6 回 2024 年 1 月 23 日（30）
女子アスリートが安心・安全に競技ができる環境を整える

第 7 回 2024 年 5 月 28 日（46）
女子アスリートが安心・安全に競技ができる環境を整える（選手参加）

● 2024/25 シーズン
女子サッカーにおける「する」「みる」「関わる」機会を増やすための解決アクションを検討、実施

第 8 回 2024 年 11 月 27 日（47）
女子サッカーにおける「する」「みる」「関わる」機会を増やすための WE ACTION のアイデア出し

第 9 回 2025 年 5 月 25 日（51）
女子サッカーにおける「する」「みる」「関わる」機会を増やすための WE ACTION の実施案を検討（選手参加）

©WE LEAGUE

2025/26 シーズンからは年 2 回ではなく、シーズン期初に 1 度の開催となった WE ACTION MEETING を 7 月 25 日に実施しました。クラブ・パートナー・リーグが一堂に会し、シーズン中に行う WE ACTION DAY のアイデア出しを行いました。第 1 部ではウォーキングフットボールを通じて多様性とインクルージョンを体験し、第 2 部では「多様性・ジェンダー」「教育・健康」「地域貢献」をテーマに具体的な活動案を議論しました。

理念推進活動の方針共有と対話を通じ、今後のアクションにつながる貴重な機会となりました。

©WE LEAGUE

活動報告

原則 2

機会の均等、インクルージョン、差別の撤廃

JFA アクセス・フォー・オール宣言

2023 年 3 月から理事会での提案によってワーキンググループを組んで検討し、2024 年 4 月に、JFA、J リーグ、WE リーグ、F リーグ、JIFF、47FA 代表者によって、共同宣言を出しました。

誰もがサッカーのする、見る、関わるにチャレンジできるよう、多様な機会と選択肢を持続的に確実に届けることを目指すこの宣言において、ジェンダー、女性はマイノリティの中の最大のマジョリティと言われるように、人口としては半数いる女性がもっと当たり前にアクセスできるようになることも、目指していくところです。

各組織のトップのコミットメントを得ながら、アクセスが様々に制限されている現実に気づきを持つことから始めて、サッカーファミリーの当たり前にしていく、日本のスポーツ文化を変えていくことを目指します。

JFA 公式 WEB サイト
アクセス・フォー・オール宣言
https://www.jfa.jp/about_jfa/accessforall/

Access for All アクセス・フォー・オール

グラスルーツからエリートまで
誰もがサッカーの「する」「見る」「関わる」にアクセスできる
多様な「機会」と「選択肢」を持続的に確実に届けます。

上記を実現するために、

1 日本サッカー協会は、各リーグや 9 地域 47 都道府県サッカー協会、および各種加盟団体と共に、サッカーを愛するすべての人が全国の日常でサッカーにアクセスし、サッカーを楽しみ挑戦できることをサッカーファミリーの「あたりまえ」にしていきます。

2 サッカーを通じて、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン（DEI）※を推進し、日本のスポーツ文化に変化を起こします。

※ダイバーシティ（多様性）、エクイティ（公平性）、インクルージョン（包括性、受容性）、3 つの頭文字をとって「DEI」とする。

アクセス・フォー・オール強化月間

毎年 4 月を強化月間と位置づけており、2025 年 4 月には、ハンドブック発行、シンポジウム実施等、サッカー浸透に努めました。その他様々な場で伝えることで、広がりを見せ始めています。引き続きサッカーファミリーの当たり前となるよう、各リーグ、47FA と協力して、取り組みを進めていきます。

【シンポジウム】

● 日時　2025 年 4 月 16 日 (水) 18:30 ～ 19:30

● プログラム

1. イントロダクション
   アクセス・フォー・オール宣言とハンドブックの目的とパネラーのご紹介
2. パネルディスカッション
   各分野の専門家によるバリアの現状と解決策
3. ディスカッションのまとめ
   参加者ができる具体的なアクションを考える

● 登壇者

岩渕 亜依さん	デフフットサル女子日本代表主将
岩田 朋之さん	ロービジョンフットサル選手 /JFA 職員
原田 精一郎さん	公益財団法人茨城県サッカー協会 FA コーチ
加藤 遼也さん	認定 NPO 法人 love.futbol Japan 代表

● ファシリテーター

日比野 暢子さん	アクセス・フォー・オールワーキンググループリーダー /JFA リスペクト委員会委員

ハンドブックでは、アクセス・フォー・オールの基本的な考え方を概説するとともに、女子、LGBTQ+、障がい者、在留外国人、貧困問題を章立てて、それぞれの課題や取り組み事例を紹介しています。
（上記 URL からダウンロードが可能）

JFA サッカーファミリーにおける女性の人数

JFA 登録者数

選　手（2025 年 3 月現在 （ ）内は 2024 年 3 月現在）

- サッカー：778,118 人（782,340 人）／ 51,194 人（6.2%）（52,083 人 6.2%）／ 829,312 人（834,423 人）
- フットサル：33,254 人（34,128 人）／ 男性 29,397 人（30,252 人）／ 女性 3,857 人（11.6%）（3,876 人　11.4%）

審判員（2025 年 12 月現在）

- サッカー：284,335 人／ 男性 268,945 人／ 女性 15,390 人（5.4%）
- フットサル：21,359 人／ 男性 19,918 人／ 女性 1,441 人（6.7%）

指導者（2025 年 12 月現在）

- サッカー：98,251 人／ 男性 94,259 人／ 女性 3,992 人（3.8%）
- フットサル：2,087 人／ 男性 1,996 人／ 女性 91 人（4.4%）
- キッズリーダー（任意）：734 人／ 男性 596 人／ 女性 138 人（18.8%）

JFA の役員・職員等における女性の人数

数字は 2025 年 12 月現在
（ ）内は 2024 年 12 月現在

理事
全 15 人（15 人）
男性 9 人（9 人）　女性 6 人（6 人 40.0%）　40%

評議員
全 79 人（79 人）
男性 75 人（76 人）　女性 4 人（3 人 3.7%）　5.3%

各種委員会
女性を含む委員会 7/12　58.3%（7/12　58.3%）
委員長 12 人（12 人）
男性 11 人（11 人）　女性 1 人（1 人 8.3%）　8.3%
委員 111 人（109 人）
男性 94 人（91 人）　女性 17 人（18 人 16.5%）　15.3%

事務局員
管理職全 75 人（56 人）
男性 62 人（46 人）　女性 13 人（10 人 17.8%）　17.3%
正社員全 196 人（201 人）
男性 124 人（125 人）　女性 72 人（76 人 37.8%）　36.7%
臨時雇用職員全 52 人（53 人）
男性 15 人（13 人）　女性 37 人（39 人 75.0%）　71.6%

マッチコミッショナー
全 1,709 人（1,688 人）
男性 1,642 人（1,625 人）　女性 67 人（63 人 3.7%）　3.9%

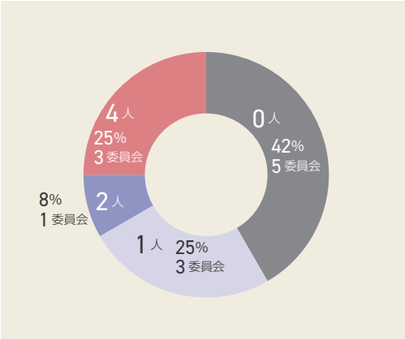
J リーグマッチコミッショナー
全 111 人（111 人）
男性 110 人（110 人）　女性 1 人（1 人 0.9%）　0.9%

WE リーグマッチコミッショナー
全 50 人（50 人）
男性 48 人（48 人）　女性 2 人（2 人 4.0%）　4.0%

なでしこリーグマッチコミッショナー
全 98 人（98 人）
男性 90 人（90 人）　女性 8 人（8 人 8.2%）　8.2% ▲

ウェルフェアオフィサー（ジェネラル）
全 1,243 人（1,268 人）
男性 1,191 人（1,198 人）　女性 52 人（70 人 5.5%）　4.2%

12 委員会ごとの女性の人数



WE リーグ・なでしこリーグの役員・職員等における女性の人数

WE リーグ・なでしこリーグの役員・職員等における女性の人数や割合は右記の通りです。WE リーグでは、2024 年 9 月に役員改選が行われ、理事の数を 15 人から 9 人と大幅に減らしました。それに伴い、女性理事比率は、53%から 33%に減少しました。

	WE リーグ			なでしこリーグ			日本フットサルトップリーグ		
役員	総数	女性人数	女性比率	総数	女性人数	女性比率	総数	女性人数	女性比率
理事	9	3	33 %	14	10	71 %	15	5	33 %
監事	2	1	50 %	1	0	0 %	2	1	50 %

WE リーグの女性登用の見える化

WE リーグは、クラブ参入基準において、女性登用を義務付けた日本初スポーツ組織です。2019 年に、スポーツ庁が策定したスポーツ団体ガバナンスコードはありますが、罰則規定はありません。WE リーグは、右記の 3 点を明らかにすることにより、組織の多様性を見える化し、WE リーグ、そしてスポーツ組織の今後に生かします。

参入基準（抜粋）

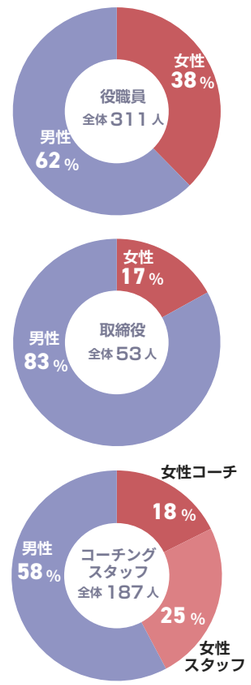
○ クラブの運営にあたる法人を構成する役職員の 50%以上を女性とする（入会から 3 年以内に達成すること）
○ クラブの意思決定に関わる者のうち、少なくとも 1 人は女性とすること（取締役以上が望ましい）
○コーチングスタッフ（監督またはコーチ）の中に女性指導者 1 人以上を含むこと

WE リーグの女性登用状況（2025 年 12 月現在）

	役職数			取締役			チームスタッフ			
	総数	女性人数	女性比率	総数	女性人数	女性比率	総数	女性人数	うち女性コーチ	女性比率
WE リーグ	30	12	40 %	9	3	33 %				
マイナビ仙台	17	7	41 %	6	1	17 %	19	8	5	42 %
三菱重工浦和レッズレディース	12	4	33 %	3	0	0 %	20	6	0	30 %
RB 大宮アルディージャ WOMEN	36	12	33 %	1	0	0 %	14	5	4	36 %
ちふれ AS エルフェン埼玉	19	11	58 %	10	3	30 %	19	10	3	53 %
ジェフ千葉レディース	44	13	30 %	4	1	25 %	21	12	5	57 %
日テレ・東京ヴェルディベレーザ	21	8	38 %	4	0	0 %	16	3	1	19 %
ノジマステラ神奈川相模原	15	6	40 %	2	1	50 %	17	8	7	47 %
AC 長野パルセイロ・レディース	30	7	23 %	3	1	33 %	11	4	1	36 %
アルビレックス新潟レディース	12	7	58 %	5	1	20 %	14	7	2	50 %
セレッソ大阪ヤンマーレディース	22	11	50 %	6	1	17 %	10	5	1	50 %
INAC 神戸レオネッサ	16	9	56 %	5	0	0 %	13	5	2	38 %
サンフレッチェ広島レジーナ	67	22	33 %	4	0	0 %	13	6	2	46 %
12 クラブ合計	311	117	38 %	53	9	17 %	187	79	33	42 %

※女性スタッフには、指導者以外のトレーナー、主務を含む　※女性コーチとは、JFA コーチングライセンスを持っている女性指導者　※カテゴリーを兼務している場合は、主に関わっているカテゴリー、または上位のカテゴリーで換算　※役職員の数に、非常勤の取締役、監事および現場スタッフは含まない　※取締役には、非常勤の取締役は含むが、監事は含まない　※強化担当者、アカデミーダイレクターは役職員に含む

組織内における女性の割合（2025 年 12 月）



高橋 薫　さん

ジェフユナイテッド株式会社　取締役
JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラム ３期生

女性だからを言い訳にしない

子どものころからサッカーが好きで、スポーツ少年団に入りました。とてもサッカーに愛情を注ぐ先生が指導をしてくださって、男子も女子も分け隔てなく教えてくださいました。高校で女子校に進学すると、サッカー部を立ち上げ、必死に仲間を集めましたが人数がそろわず、１年で廃部になってしまいました。それでもサッカーへの思いは変わらず、大学入学後は地元クラブに入り、やって楽しむのが一番と、今でもプレーを続けています。

大学院を卒業するときに就職をどうしようかと考える中で、御縁があって古河電工にお話しをうかがう機会があり、1992 年、ちょうどＪリーグができるタイミングで、夢のようなお話を聞きました。勢いで、ぜひ入れてください！とお願いしたのが経緯です。

しかし入社当時は、多くの企業がそうであったように、女性の総合職はなく、待遇に大きな男女差を感じる場面が少なくありませんでした。給与体系や昇進、研修制度では男性が優先され、逆に女性には勤務時間への配慮があるなど、当時の社会の空気を象徴するような環境が続きました。最初の 10 年くらいそんな思いもしてきましたが、個人的には、フラットな上司に恵まれ、経験を重ねることができました。その観点で、どういう考え方の人が上司なのかはとても大きいことだと感じます。

98 年頃、運営を担当していた時、Ｊリーグの木之本興三さん（当時、専務理事）にお会いした際「お前が高橋か。男のようにすごく仕事をするやつがいると聞いていたんだ」と言っていただき、その時に、がんばってやっていたら必ずどこかで誰かが見てくれているんだと思いました。当時最大の褒め言葉だと感じ、自信を持つことができました。

やがて、時代の流れや経営体制の交代などで潮目が変わり、JR から出向で来られていた三木博計さんが専務だった頃（後の代表取締役社長）に、給与システムが変更されました。「力があるのに女性だからと給料が安いのはおかしい」とはっきりと言ってくださったことを覚えています。そこから人事評価制度や昇進試験制度などが採用され、男性にも女性にもフラットな評価になりました。あの制度がなかったら、今このポストになっていなかったのではないかと思い、すごく感謝しています。

50-50 ではないことを不満に思わないわけではなかったのですが権利を主張するよりも、やるべきことを積み重ねていったことが実を結んだと思っています。もし、リーダーを目指す女性に、私が助言できるとしたら、女性だからを言い訳にせず、自分を磨き続けることが必要だと伝えたいです。もし本当に優秀で誰が見てもこの人は使わないともったいないなと思えば絶対に上にあげてくれる、これはもちろん女性に限らないことですが、それが生きていく道なのではないかと思います。本当にすばらしい選手であればどんな監督でも使うはずです。それと同じ。そこまで努力してレベルアップしていけば評価されるはずです。

一昨年、レディース部門の部長になりました。声をかけられた当時は、事業部で部長になれればという思いもあったのですが、まず引き受けることが大事であり、女性である私が「部長」というポジションに就くことで、後に続く女性が出てくるはずだという後輩の声もあり、その任を受けました。実際、段階を踏むことは重要であり、ここで部長になっていなければ、今の取締役の話もなかったと思います。

女性の、そしてプロパー出身の取締役として

ジェフにとってプロパー社員が経営陣になったことは今後に向けてとても大きな話だったと思います。女性だからやめておこうにならなかった。逆に今の時勢だから女性を入れておこうということでもなかった。そして、いろいろな人がサポートしてくれていました。

プロパーとしていろいろな部署を経験してきました。行政の長から信頼を得られたことも、私の強みとして評価していただいたのだと思います。とはいえ、この人事には、島田社長をはじめ、周りの方は相当根回しをしてくださったと思います。それでも、出資会社の皆さまに、取締役になった際にご挨拶にうかがい、サポートをいただいたお礼をお伝えしたところ、「自然な流れだ」と言っていただきました。会社ができて 30 年経てば、経験を積み重ねてきたプロパーが出てくるという社会をご存じの皆さんだからだとも思いますが。

男女問わずプロパーが取締役に就任すること自体が私たちの会社では革命的なことであり、取締役の話をいただいたとき、重大なことであり、経営の勉強をしてきたわけではなく、自分が失敗したら今後のプロパー登用の道が閉ざされるのではないかという重圧もあったので、考える時間をいただきました。今までとてもお世話になった二人の方に相談をしたらそれぞれから、「選択肢ないでしょう。あなたがこれを逃したらプロパーが取締役になる機会がいつくるかわからない」「やれることしかやれないのだから、自分がやれることを一生懸命やればよい、それ以外のことを会社は求めていない」と助言をいただきました。自分ができることがあり、それを一生懸命やり、それで評価してもらうしかありません。その言葉に納得し、覚悟を決めて取締役を受けました。

この役割となり、事業系すべてを預かることになりました。ある程度分かっているからこそ、早く決断して皆がスムーズに動けるようにしたい。現場が好きで、まだまだやりたいことがたくさんありましたが、今の立場だからこそできることもたくさんあります。自分がずっとやってきたからこそ感じ考えていたことを、形にしていかないといけないと思っています。みんなが働いていて楽しいと感じる会社にしていけたらと思っています。

リーダーの一人として、逃げてはならない、最後は責任を取るんだ、という気持ちを強く持っています。逆にそれを心配してくれる仲間もいます。就任後、自分のことのように喜んでくださった方も多くいました。自分がロールモデルになっている自覚を持ち、女性の、そしてプロパー出身の取締役として今後も力を尽くしたいと考えています。

女性リーダーとともに

島田 亮　さん

ジェフユナイテッド株式会社
代表取締役

高橋薫さんの取締役就任について、女性登用という文脈で語られ、サッカークラブ運営会社の女性取締役として注目されることが多いかと思いますが、私は別の視点を持っています。

ジェフユナイテッド株式会社は、これまで、慣例的に親会社からの出向者によって経営体制を構成していました。経験豊富な人材が取締役として経営に関わっていくことの意義は大きいものの、クラブの生え抜きの人材を入れることのメリットがあることも事実です。Ｊリーグも 30 年が経過し、その中で育ってきた優秀な人材も多くいます。プロパー社員には、クラブで培ってきた経験と覚悟が備わっています。Ｊクラブの経営はどこも必ずしも簡単ではなく苦労されていることも多い中で、厳しい状況になったときにもいざというときに、逃げずに必死に守ってくれる人は現場感覚のある人材です。そういった方には、人もついてくるものです。窮地になったときに、みんなが頼るのは誰か。常々そういう思いがあって、この取締役人事を検討し、自然と高橋さんの顔が浮かびました。決して女性取締役の割合を増やすといった観点ではなく、性別にかかわらず優秀で、皆が信頼する人材、現場の思いをダイレクトに聴くことの出来る存在だったからです。結果として、彼女は、後輩である社員たちに勇気を与える存在になってくれていると思います。プロサッカークラブは小規模な産業、組織であり、男性だろうが女性だろうが、優秀な人材を使わないのは会社としてマイナス、もったいないことです。垣根がない方がクラブにもメリットが大きいと思います。優秀な女性を起用しないという場合ではありません。
時代の影響も色濃くあった中で、相当苦労した女性達の姿も見てきました、彼女も苦労もしてきただろうけれど、それに抗ってきた先輩達の存在もありました。

サッカー界はやはり男社会という印象がまだまだ強いかもしれませんが、すこしずつ変わってきています。スタジアムには女性のお客様も大勢お見えになりますから、サービス業としては女性の視点は重要です。例えばお手洗いの設備や食事のメニュー開発など、女性の声をきいてはじめて気づくことも多くあります。

日本の女子サッカーの歴史の中でみれば、ジェフでは古くから女子チームを持ち、女子サッカーに力をいれてきました。女の子たちがサッカーに夢を見続けられるようになっていきたいという思いもあります。選手として活動してきた女性が、指導の現場や GM になるなど、自クラブあるいは他クラブでも活躍する、そういった姿はとても嬉しいものですし、良い循環が生まれていると思います。今年ジェフで迎えているスペイン人女性監督のカレルメ・トレスさんはすばらしい指導者であり、その姿がまたすばらしいロールモデルになるのではないかと思っています。選手が、サッカーに関わり続けるロールモデルを提示するクラブでありたいと思います。

高橋さんの存在は、女性の多様な生き方の一つとして、目標を示しています。今後も女性がサッカーに関わり続けられる環境を育て、優秀な人材とともに、企業とクラブを発展させていきたいと思います。

2026 年 2 月インタビューの様子
左：島田亮代表取締役、右：高橋薫取締役

WE STATEMENT

WE リーグの各クラブは、理念の実現に向けたクラブの指針を示す「WE STATEMENT」を発表しており、必要に応じて毎年更新しています。

WE リーグ公式 WEB サイト
WE STATEMENT
https://weleague.jp/weaction/2/#club

マイナビ仙台

マイナビ仙台は、地域における存在価値を高め、永く愛されるクラブとなるため、在仙プロスポーツチームと連携しながら、より一層仙台、宮城、東北を盛り上げる存在を目指します。

三菱重工浦和レッズレディース

私たちは、理念実現のために、世界水準のサッカーを目指し、誰もが誇りと親しみを持つことができ、健全で持続可能なクラブを築いていきます。

RB 大宮アルディージャ WOMEN

RB 大宮アルディージャ WOMEN は、地域のために、子どもたちのために、常に新しい発想を持ってチャレンジし続けます。

ちふれ AS エルフェン埼玉

ちふれ AS エルフェン埼玉は、理念実現のために、子ども達の未来へ、地球環境の未来へ、女子サッカーの未来へ、さまざまな可能性を未来へつなげる活動を積極的に行います。

ジェフ千葉レディース

ジェフ千葉レディースは、サッカーを通して、クラブ理念に掲げたジェフスピリッツ (真摯・挑戦・つなぐ・地域課題への取り組み・ダイバーシティ・育成・感動) を実践し、日々積み重ね、取り組んでいきます。

日テレ・東京ヴェルディベレーザ

私たち日テレ・東京ヴェルディベレーザは、WE リーグ理念実現のために、ホームタウンを中心としたエリアで愛されるクラブになれるよう、地域の活性化と発展に貢献します。

ノジマステラ神奈川相模原

ノジマステラ神奈川相模原は、WE リーグ理念実現のため、地元地域の星（チーム名由来）となり、性別や年代に関係なく、一人ひとりが輝ける社会、の実現を多様性ある神奈川から発信し、「日本一、輝く」クラブを目指します。

AC 長野パルセイロ・レディース

AC 長野パルセイロ・レディースは、WE リーグ理念実現のために、地域と共に歩み、スポーツの力で NAGANO を元気にする活動をします。

アルビレックス新潟レディース

私たち アルビレックス新潟レディースは、理念実現のために、ピッチの内外を問わず活躍できる人財となり、魅力あふれる新潟づくりに貢献します。ヒト、まち、モノ、文化・伝統・芸能、食、観光、気候など“新潟という地域社会そのもの”をより一層活性させて、輝ける存在になることを約束します。

セレッソ大阪ヤンマーレディース

私たちセレッソ大阪ヤンマーレディースは、サッカーを核とする事業を展開し、夢・希望・感動にあふれた スポーツ文化の振興と地域社会の発展に貢献します。

INAC 神戸レオネッサ

INAC 神戸は、「For The Future」をスローガンとして、日本女子サッカーの発展のためにサッカーを通じて少女たちに夢と希望を与えられる存在となり、WE リーガークレドの実現を目指します。

サンフレッチェ広島レジーナ

私たちサンフレッチェ広島レジーナは、理念実現のために男子チーム、女子チーム両方持っているクラブとして男女関係なく、お互いを RESPECT し、各々がサッカーを通じて地域の皆様と共にサッカー発展に携わる人材を増やしていきます。

JFA 女性指導者について

● 概要

2025 年 12 月時点で、女性指導者は全体の 3.9%です（次ページ表参照）。

女性指導者については、女性選手の増加を追う形で進むものと考えますが、いずれにせよ大変少ない状態であり、積極的な改善が必要です。国際サッカー連盟 (FIFA) ヨーロッパサッカー連盟 (UEFA)、そしてアジアサッカー連盟 (AFC) でも、重要なトピックとして様々な積極的な施策がとられています。

指導者養成は本来、男女関係なく行われるものであり、女性をことさらにとり出して取り組むことには議論がありました。しかし、長年にわたり自然にやってきた結果が、今の状態であることを考えると、一定期間は特別な対応をして変化の土台をつくる必要があります。

女性指導者が少ない理由の一つとして、ロールモデル不足が挙げられます。現状までの女子の選手たちは、子どもの頃からの選手経験の中で女性に指導される経験が少なく、そのために将来自分自身が指導を行うイメージを持っていないことが多くあります。また、数が少なすぎることで際立ってしまい、個々の特長は異なるのに一般化されがちでもあります。

女子サッカーの普及を進める上でも、女性指導者の存在は重要であると考えます。特に低年齢では、女子だけのチームももちろんありますが、男子に混ざってプレーをする機会が多くあります。その多くは、大勢の男子の中に少しの女子が混ざって頑張る状況です。

そのようなときに、指導スタッフに女性もいれば、子どもたちにとっては非常に心強く、参加のハードルが下がります。また、保護者の皆さんにとっても安心だと思います。遠征や宿泊を伴う活動ではなおさらです。特にキッズや U-12 年代の活動現場には、女性指導者がいる状態をつくり、普及を進めていきたいと考えています。女性指導者を増やすこと、現場への配置を進めることに合わせて取り組んでいます。

● 女性の受講促進のために女性コースの設定

女性指導者がより指導者養成コースを受講しやすいように、女性を対象としたライセンスコースの設定を行っています。（次ページ表参照）

女性だけでライセンスコースを行うことに対して、当初はレベルの低下やニーズの有無、経験不足等を懸念する声もありましたが、実際に情熱を持って受講し、吸収し成長する受講者に触れるにつけ、その先入観は一掃されています。男子と一緒に受講するメリットももちろんあり、それは選択肢としてありつつ、機会を増やすこと、受講しやすさを高めることに取り組んでいます。各都道府県サッカー協会（FA）でも、女性コースの設定や、受講を促す声掛け、現場への導入など、さまざまな取り組みをしていただいています。

● A-Pro ライセンス

JFA 技術委員会との連携で「女子サッカー振興プロジェクト」の一環として、女性指導者を対象に、AFC-Pro 基準の新たなライセンスとして「Associate-Pro（A-Pro）ライセンス」を 2020 年より時限的に開設しました。保有者は WE リーグでの指揮が可能です。

A-Pro ライセンス取得者全員がコンバージョンコースを修了し、Pro ライセンスを取得しています。

JFA 公式 Web サイト
A-pro ライセンスについて
https://www.jfa.jp/women/associate_pro/

開設の目的　- 日本女子サッカーの継続的な発展に向けて

1．女子 / 女性のサッカー競技人口の増加

- プレー機会減少によるサッカー離れを生み出さないため、女子委員会が行う普及施策を "ALL JFA" として取り組む
- 女子 / 女性が継続的にサッカーを楽しむことができる環境を整備し、サッカーを長く楽しみ、応援してくれる女子 / 女性を増やす

＋

2．次世代を引っ張るリーダーの育成

- WE リーグ立ち上げで監督になり得るだけでなく、後進指導者たちを育て導いていくロールモデルの育成
- インターナショナルな分野でも活躍できる人材の育成

新たな施策に着手

女性指導者育成の突破口として S 級に準ずるライセンス「Associate-Pro（A-Pro）ライセンス」を“時限的”に創出

女子サッカーのみならず、日本サッカー全体の継続的な発展へ

2025 年度女性対象ライセンスコース一覧

B 級	JFA
C 級	JFA 女子学連 ※ WE クラブ 大阪 FA 千葉 FA 岡山 FA 宮崎 FA 鹿児島 FA
D 級	宮城 FA 茨城 FA 群馬 FA 神奈川 FA 富山 FA 静岡 FA 三重 FA 岐阜 FA 福岡 FA 宮崎 FA

※全日本大学女子サッカー連盟

振興プロジェクト ※ JFA 技術委員会と連携して 2020 年から実施
女性を対象にした指導者養成コース

A-Pro ライセンス	2020 年から実施
A 級ライセンス	2021 年から実施
B 級ライセンス	2018 年から実施
C 級ライセンス	2017 年から実施

※ JFA、47FA、WE クラブ、女子学連

D 級ライセンス	2017 年から実施

※なでしこリーグ新人研修、JFA、47FA、女子学連

指導者登録者数 表中の（　）内は前年の数

サッカー	全登録：人	女性：人	女性比率
S 級	598	31(22)	5.2%
A 級ジェネラル	2,298	71(74)	3.1%
A 級 U-15	197	3(3)	1.5%
A 級 U-12	377	3(3)	0.8%
B 級	8,457	320(315)	3.7%
C 級	28,819	1,506(1,450)	5.0%
D 級	56,771	1,920(1,629)	2.9%
キッズリーダー(任意)	734	138(156)	21.3%
合計	**98,251**	**3,992(3,652)**	**4.1%**
（参考）　前年合計	97,446	3,652	3.7%

サッカー（GK）	全登録：人	女性：人	女性比率
GK レベル 3	299	5(5)	1.7%
GK レベル 2	411	10(6)	2.4%
GK レベル 1	2,852	85(82)	2.9%
合計	**3,562**	**100(93)**	**2.8%**
（参考）　前年合計	3,407	93	2.7%

フットサル	全登録：人	女性：人	女性比率
フットサル　A 級	65	3(2)	4.6%
フットサル　B 級	214	9(8)	3.7%
フットサル　C 級	1,717	79(99)	5.8%
合計	**1,996**	**91(109)**	**4.6%**
（参考）　前年合計	2,308	109	4.7%

サッカー・フットサル合計	**100,247**	**4,083**	**4.1%**
（参考）　前年合計	99,754	3,761	3.8%

JFA/AFC 女性プロディプロマコース

女性指導者養成は、世界中で重要なトピックとされ、取り組まれています。全体の人数を増やすことと同時に、上位級の指導者の養成も重要視され、コースの中での女性枠の設定、メンターシップ、上位ライセンス受講の際のスカラシップの設定等、FIFA, UEFA 等、その他各国協会でも様々な取り組みがなされています。

日本ばかりでなく、アジア全体で、女性指導者がプロライセンスの講習会にアクセスするのは簡単なことではありません。AFC 女子チャンピオンズリーグ開始に際し、それを解消するためのポジティブアクションとして、AFC との連携のもと、2014 年から JFA にて女性プロディプロマコースを開催することになりました。日本からの参加者 7 人を含め、14 カ国から 20 名の指導者が参加して 10 月より開始しました。

指導者養成全体で検討が進んでいるとのことですが、参加者がより参加しやすいように、集合研修を短くし、間の学習をメンタリングによって実施することで、よりリアリティをベースとした、すなわち自分の通常の指導現場での指導をベースにし、そこにメンターが訪問する形で指導実践を重ねる方式を、国内・アジア他国の多くのメンターの協力を得て採用しました。

4 回の集合研修、間の学習、オンラインセッション等を経て、すべてのカリキュラムが修了しました。受講者同士、アジア全体に仲間ができたこと、アジア全体の女子サッカーの状況を認識する大きな機会となったことも大きな収穫となり、今後の受講生達の活躍が期待されます。

A-Pro ライセンス取得後プロライセンスにコンバージョンした金野結子さんがアシスタントチューターとして参加しました。

全体スケジュール

開校式	2024/9/11	オンライン
Module1	2024/10/18-10/27	夢フィールド
Mentoring1	オンサイト (2 日間) + オンライン	各自のリアルベースで実施
Module2	2025/1/17-1/23	熊本・宮崎（フットボールカンファレンス受講、J クラブ開幕前キャンプ視察）
Mentoring2	オンサイト (2 日間) + オンライン	各自のリアルベースで実施
Module3	2025/5/17-5/25	中国・武漢市（AFC 女子チャンピオンズリーグ準決勝・決勝視察）
Mentoring3	オンサイト (2 日間) + オンライン	各自のリアルベースで実施
Module4	2025/10/26-11/2	大阪・J-GREEN 堺

背景・目的

2018 年に AFC は UEFA との「コーチコンベンション (ライセンスの互換制)」を立ち上げ、アジアのコーチ教育に大きく貢献してきました。プロディプロマに関しては 47 カ国・地域中 16 加盟協会 (MA) でしか認定されておらず、10 年先を見据えても急増は期待できません。一方、ナショナルコーチや AFC チャンピオンズリーグ (ACL) に参加するコーチにはプロライセンスが義務化されているものの、ライセンス取得や技術向上の場は設けられていません。**特に女性コーチについては、2024 年に女子 ACL が発足するにもかかわらず、アジアにはプロディプロマ保持者が少なく、女性エリートコーチの育成はアジアにとって喫緊の課題**でした。

自国の MA でプロディプロマを受講できない潜在能力の高いコーチに、AFC と MA がパイロット・プロジェクトとして、**AFC と MA のジョイント・コースを開催し、指導者に学ぶ機会を創出ことが重要**です。

コース期間中だけでなく、コース終了後も相互に切磋琢磨することでアジア全体での底上げを狙っています。

各モジュール詳細

	目的・テーマ	トピック
Module1	● 導入 ● コースのマインドセット・ゴール設定 ● 関係性の構築	● 14 カ国から多様なバックグラウンドを持つ受講生にプロ監督としての要素・知識の共有・インプットし、刺激を与える ● コース終了後もお互いに切磋琢磨できる継続的な関係性を構築する
Module2	● 準備・プロセスの重要性 ● マネジメント ● フットボール・ストラテジー、テクニカルリーダーの重要性	● フットボールカンファレンス・J クラブの視察・レジェンドスピーカーから、「リーダーシップ」・「マネジメント」・「ビハインド・ザ・カーテン」の重要性を知る
Module3	● これまでにインプットされた知識を実践する ● 分析力・リーダーシップ・マネジメント能力を向上させる	● これまでの Module・オンラインセッション・メンタリングでのインプットを踏まえ、「プロ監督」・「テクニカルリーダー」を想定した実践から学びを得る ● 審判との協調・AWCL の準決勝、決勝から多様なシーンの「Emotion」を感じ取る ● テクニカルリーダーとして中長期展望を立てる
Module4	● 最終モジュール ● Thesis と指導実践	これまでの Module・オンラインセッション・メンタリングでのインプットを踏まえ ● 筆記試験の実施 ● 各自の中長期展望の発表 ● 指導実践の実施

オンラインセッション

	開催日	講師	テーマ
0	2024/9/11		Opening Ceremony
1	2024/12/10	菅野 淳 (JFA フィジカルフィットネスプロジェクトリーダー)	Planning of Fitness Training
2	2025/1/8	Bai Lili（AFC Women's Director）	AFC Women's Football Development
3	2025/2/27	川俣 則幸（GK プロジェクトリーダー）	Collaboration between HC and GK Coach
4	2025/3/26	小野 剛（AFC Vice Technical Director）	Technical Study
5	2025/5/15	恩塚 亨 (前バスケットボール日本女子代表監督)	Team Management
6	2025/7/4	越智 滋之（U20/U23 テクニカルスタッフ / JFA テクニカルハウス）	Analyst's View
7	2025/8/1	Graham Turner（AFC Consultant）	Media Session
8	2025/9/8		各グループによるレジェンドインタビューのセッション
9	2025/9/29		各グループによるレジェンドインタビューのセッション

スペシャルセッション
将来プロライセンスコーチとして活動する上で FA として求めたい項目を補習するサポートプログラム

	開催日	テーマ
1	2025/4/8	● プロライセンスに必要なものとは？
2	2025/5/9	● ディティールに迫る ・コーチングスタッフとの良好な関係性 ・会見での立居振舞 ・監督と選手の信頼関係の構築、チーム内での雰囲気作り ・リーダーシップとは？
3	2025/10/22	● 最終モジュールに向けて課題の進め方

川嶋 珠生 さん

スフィーダ世田谷 FC
監督

指導者の道へ

小学１年生からサッカークラブに入り、中学進学と同時にスフィーダ世田谷 FC １期生として入団。高校までプレーしました。筑波大学在籍時に女子サッカー部に在籍しましたが、卒業後、当時スフィーダの監督をされていた川邊健一さんに声をかけていただき、スフィーダに戻ることとなり、４年間プレーを続けました。一つ上の先輩選手である千葉恵美さんが、選手としても社会人としてもキャリアを積み重ねていらっしゃる様に影響を受け、フットボールを様々な角度で見ることで視野が広がることに気づかされ、セカンドキャリアとして指導者の道を進むことを選択しました。

指導者としてもスフィーダ一筋であり、育成年代から少しずつトップチーム近づくような形で指導経験を積み上げていくことができています。選手時代から育てていただいた川邊さんから街クラブで育成を大事する考え方を学びましたが、セカンドキャリアとして指導者を選ぶことに価値を見出してくださったのも川邊さんです。また、神川明彦監督からはサッカーの本質やチームマネジメントの重要性を学びました。

プロディプロマコースでの気づきと成長

JFA/AFC 女性プロディプロマコースの受講は、A ジェネラルライセンスコーチ養成講習会のインストラクターであった小野剛さんに声をかけていただいたことがきっかけでした。英語で行われる講習会ということに若干の不安はありましたが、10 年先の自分のキャリアを考えたときにぜひ行きたいと思い、参加を決めました。

14 ケ国 20 人の受講生は、指導者としてだけではなく、テクニカルダイレクターやGM、協会の職員など様々な立場をお持ちであり、国を背負って参加されている方もいました。英語をネイティブに話す方はオーストラリアから参加されている方だけでしたが、そのグループに入ったとき、はじめは緊張でがちがちになっていましたが、彼女たちが私に伝わるように工夫をしてくれ、徐々に信頼関係を築けるようになりました。

第３モジュールでは、受講生全員で発表のプレゼン資料を作るミッションが与えられました。言語の壁を感じながらもやり遂げたとき、一人で受講しているのではなく、チームとして学ぶ実感を得て、組織で動くことの素晴らしさや、そこに貢献することでの充実した気持ちを味わいました。これは大きな学びでした。また、日本語だと遠回しな表現になりがちですが、英語で話すときにはよりストレートな表現となります。自分の考え方に対して率直に意見を言ってもらえたのはよい経験でした。自分の指導をよくしたい、自分をよく見せたいという気持ちに対し、「自分じゃなくて選手を見なさい」といったことをまっすぐ言われたことが胸に響きました。

自チームでの指導実践をメンタリングしていただけたこともとても有意義でした。メンタリングで吸収したものを翌日に発揮できるため、インプットとアウトプットのスピード感が全く違います。成長している実感がありました。

今のアジアの状況をリアルタイムで知ることができたことも大きな経験でした。コース中にミャンマーでの大地震が起こり、サッカーが当たり前ではない環境であることについて考えさせられました。日本よりも女性にとって過酷な環境である国の方もいらっしゃいましたし、女性がサッカーをできる環境をつくるための努力を知ることができ、そういった部分での感度も高まりました。一方で、アジアのサッカーの伸びしろを感じたことも大きな経験でした。視野が広がり、世界に仲間ができるという財産を得ました。

女性指導者コースの意義と受講生としての責任

女子サッカーの歴史や女性リーダーを学ぶ機会も刺激になりました。指導者の世界では女性の数はまだ少なく、ともすると女性指導者はこういうもの、などといったある種のバイアスのようなものがあるかもしれません。「女性の」ではなく一人の指導者として見ていただくためには、数を増やしていくことも必要なのだと思います。今まで自覚していなかったのですが、講習会のような学びの場であってもどうしても男性と比較して萎縮することがありました。しかし、女性だけのこのコースでは、自分自身を安心して表現できました。有意義だったと感じているからこそ、このコースの一期生であることには責任を感じています。私たちの活躍がアジアの女性指導者の活躍に直結するわけですから。受講を終え、ここからブラッシュアップしていく必要がありますが、今、向上している感覚があります。今後、このような機会が目の前にやってくる女性がいらしたら、ためらわずぜひ飛び込んで行ってほしいと思っています。

李 冬娜 さん

中国女子代表チーム
アシスタントコーチ

私のコーチング経歴

現役生活の終盤の 2019 年、指導者への転身計画を立てはじめると、自然とリーダーシップの役割が増え、若手選手の指導やトレーニングの手配を支援するようになりました。「選手兼コーチ」という役割を担うことで、プレーヤーとコーチの間の隔たりを徐々に埋めていきました。引退後は小学校で体育教師として働きながらコーチングコースを受講し、指導者としての基盤を固めました。2022 年、天津盛徳女子足球クラブ（プロリーグ２部）のヘッドコーチとして初めて正式な指導者職に就き、2023年には天津市サッカー協会U15･U16女子選抜ユースチームの短期コーチを務めましたが、小学校勤務とのスケジュール調整が難しく、数カ月で体育教師の職務に復帰。同年、指導者資格の取得を継続し、AFC A 級ライセンスを取得しています。

2024 年５月、中国女子代表チームプログラムが正式に発足し、中国サッカー協会（CFA）より代表チームコーチングスタッフへの参加を招請され、オーストラリア人コーチ陣が率いるハイパフォーマンス環境で活動する機会となりました。

指導者を目指すきっかけ

選手から指導者への転身は、瞬間的な決断ではなく、時間をかけてプロセスを積み重ねた結果でした。他者の成長を支援し、トレーニングがピッチ上のパフォーマンスに結びつく姿に大きな満足感を覚えるようになりました。同時に、トレーニング方法論、選手育成システム、ゲームモデルの構築にもより注目するようになりました。次第に、指導者としての道こそが、より深い視点でサッカーと関わり続け、より大きな責任を担い、長期的な視野で競技に向き合えるものと気づきました。

JFA/AFC プロディプロマコース参加の動機と主な学び

指導者としての能力をさらに高め、現代サッカーに対するより広範で国際的な視点を獲得したいという思いから参加したこのコースは、質の高い専門的な学習プラットフォームのもと、経験豊富な講師陣やメンターから直接学び、アジア各地のトップレベル指導者たちと意見交換する機会を与えてくれました。

プログラムを通じて、トップレベルのコーチには技術的・戦術的専門知識以上のものが求められることを理解しました。チーム内での信頼構築、選手層における役割定義、ゲームモデルとの一貫性維持、プレッシャー下での意思決定、そして共通の目標へ向けたチーム指導といったリーダーシップとマネジメントスキルが不可欠です。

多様なサッカー文化を持つコーチ陣との協働も、本コースの貴重な要素でした。議論や分析の共有、相互支援を通じて、異なる文化や哲学から生まれる貴重な「化学反応」と新たな視点が生まれました。この交流を通じて、アジアサッカーの多様性と可能性も理解できました。

プロフェッショナルレベルでの指導スキルの強化だけではなく、コーチとしてのコミュニケーション能力とアイデンティティも成長できたと感じています。より高度な指導課題に挑む自信を深めるとともに、女性コーチが現代サッカーに独自の価値をもたらし得るという確信も持てました。

今後の目標とビジョン

このコースで学んだ哲学と手法を実践的な指導に活かし、中国およびアジア全域における女子サッカーの発展に貢献したいと考えています。選手の潜在能力を引き出し続け、ピッチ上、トレーニング、そして人生において成長を支えられる情熱的で影響力のある指導者となることを志します。優れた指導者はチームのパフォーマンスを形作るだけでなく、選手たちの未来をも形作る存在だと確信しています。

短期的には、国内外のプロクラブや代表チームを指導して競技力と選手育成の両面で総合的な飛躍を導き、長期的には、コーチ教育や女子サッカー発展プロジェクトに携わり、特に多くの若い女性が指導者としての役割を担えるよう支援したいと考えています。サッカーのあらゆるレベルで女性の参加を増やし、十分な成長機会を提供することが、アジアにおける女子サッカーの継続的な発展の重要な推進力であると考えます。

また、指導者として継続的な学習に専念し、エリート育成モデルを研究し、様々な年齢層での実践経験を積んだことで、短期的な結果よりも細部へのこだわりと長期的な育成を重視する、選手中心の哲学を形作ることができました。自身の選手経験と教育・コミュニケーション・チームビルディングへの情熱を融合させることのできるコーチングこそが、私が生涯を捧げるべきキャリアであると考えています。

本コースへの推薦をしてくださった中国サッカー協会に心から感謝するとともに、これほど専門的で国際的な学習の場を提供してくださった JFA と AFC に深く感謝いたします。このコースの一員となれたことを大変光栄に思います。また、指導者、メンター、チューター、そして仲間たち全員の支援とインスピレーションに感謝します。この経験は、今後何年にもわたって、私の指導者としての歩みに影響を与え続けると確信しています。

● 女性監督メンタリング制度

女性指導者の積極的な養成・サポートは、世界のサッカー界で取り組まれています。日本でも、WE リーグ、なでしこリーグにて女性監督が活躍する場ができてきていますが、プロあるいはそれに準ずる環境でチームを預かる事例や経験が豊富でなく、多岐にわたる課題に対して力が発揮できにくい状況にあります。今回、監督という役割に特化し、サポートするため、FIFA や UEFA での取り組みも参考に、本人の希望があった場合に、経験者に相談することができる体制を整備して開始しました。

● WE リーグ C 級ライセンス研修

女性指導者養成およびサッカー理解を深めるために、WE リーグのプロ契約選手にC級ライセンスの取得が求められています。講習会を受けて、今までと違った視点でサッカーを見るようになると、将来は指導者になりたいと考えるようになり、中には、より高い指導者ライセンスを目指す選手も出てきました。

なお、GK レベル１ライセンスの取得者は累計で６名となりました。

● 上位ライセンスに向けたスキルアップ研修

上位ライセンスへのチャレンジを促すべく、2016 年から女性指導者スキルアップ研修会を実施しています。

特に上位ライセンスにチャレンジするためのトライアル指導実践に自信を持って臨めることを目指し、指導実践を中心に研修しています。

● 47FA 女性チューターの追加２枠の設定

C級・D級の女性チューター（旧インストラクター）は、2019 年以前で 550 人中８人（1.5%）しかいませんでした。女性指導者の養成を積極的に進める人材として、47FA のチューターに、各２枠の女性チューター枠を設定しました。2025 年 12 月現在、C級・D級の女性チューターは、全チューター613 人中 49 人（8.0%）となっています。

今後の 47FA 女性チューター数の目標は 100 人です。女性チューターが今後経験を積み、上位ライセンスのチューターになることも期待されます。指導者養成の重要なパートを占める人材となってもらうための準備です。

2025 年度 女性チューター数

	全体総数：人 全登録	女性	女性比率
A ライセンスジェネラルチューター	19	2	10.5%
B ライセンスチューター	181	3	1.6%
CD ライセンスチューター	613	49	8.0%

● 今後に向けて

多くの女性にとってはなかなか指導を自分事としてイメージしにくく、受講者が集まりにくい状況があり、「ニーズがないのでは」と言われることもあります。しかし、現在活躍している女性指導者の多くは、恩師や周囲の指導者に声を掛けられ、励まされ、背中を押されて取り組み始めたケースです。ぜひ周囲の指導者の皆さんのご協力をお願いします。

また、今後の課題として、ライセンスの失効・退会を減らしていくことも大きなテーマです。失効・退会が多いことは女性に限ったことではありませんが、ぜひ指導を長く続けてもらえるように、出産・育児などで一時的に離れてもまた再開してもらえるように、制度の整備や充実を図っていきます。

女性監督・コーチ

JFA ナショナルコーチングスタッフ	3
WE リーグ 2024/25 シーズン監督	2
なでしこリーグ 2024 シーズン監督	6
F リーグディビジョン１監督・コーチ	1
日本女子フットサルリーグ監督・コーチ	10
JFA コーチ女子担当	10

47FA における女性技術委員長

岡山 FA	1FA/47FA（2.1%）

※ 2025 年 12 月現在

全日本大学女子サッカー連盟（女子学連）

チーム数	85	北海道２大学、東北４大学、関東 34 大学、北信越５大学、東海７大学、関西 18 大学、中国５大学、四国２大学、九州８大学
登録者数	2,235	北海道・東北 119 名、関東 1,127 名、北信越 114 名、東海 158 名、関西 465 名、中国 86 名、四国 43 名、九州 123 名
監督内訳	女性 19（22%）男性 64（監督不在２チーム）	

※ 2025 年８月現在

47FA における女子ユースダイレクター

北海道 FA・静岡 FA	2FA/47FA（4.3%）

※ 2025 年 12 月現在

女子学連指導者ライセンス取得者数

D 級ライセンス	7
C 級ライセンス	87
KG-C 級ライセンス	0
フィジカル C 級ライセンス	1
2024 年度指導者講習会参加者	19

※ 2025 年４月現在

女子学連出身選手数

WE リーグ	112	※ 2025 年９月９日調べ（特別指定選手及び内定者も含む）
なでしこリーグ	１部 165　２部 173	※ 2025 年８月８日調べ

北海道 FA では、道内５ブロックにそれぞれユースダイレクターが配置されています。

JFA 国際的に活躍する女性指導者

指導者ライセンスの上位ライセンスを取得したり、JFA 公認指導者の海外派遣を活用したりして、各国の代表チームを率いるなど国際的に活躍する女性指導者もいます。

鈴木木乃実
U-17・U-20 代表監督・テクニカルダイレクター代行
(2025 年２月１日～ 2025 年３月 31 日)

U-17・U-20 北マリアナ諸島代表監督に加え、北マリアナ諸島サッカー協会で技術委員長を務めていた三田智輝さんの後任の決定・就任までの期間、技術委員長代理という立場でも活動。AFC U20 アジアカップ（男子）には大会初の女性監督として参加しました。

高倉麻子

エリートレベルの若い女性指導者養成を目的として、FIFA の the Elite Performance: Coach Mentorship Programme に、メンターとして参加しています（２回目）。

田代久美子
ミャンマー U-17 女子代表監督
(2025 年７月～)

金野結子
タイ代表アシスタントコーチ
(2025 年１月～ 2025 年８月)

JFA 女性審判員について

● 審判員登録数

2025 年 12 月 31 日時点で、女性審判員登録数は右表の通りです。

	全登録	女性
サッカー審判員	284,335	15,390
フットサル審判員	21,359	1,441
サッカー審判インストラクター	3,068	158
フットサル審判インストラクター	566	30
合計	**309,328**	**17,019**

※ 女性の割合は 5.5%

[全日本大学女子サッカー連盟（女子学連）との協働]

女子学連との協働企画として、「審判員スキルアップ研修会」を開催しました。

女子学連より加盟大学の女子サッカー部へ募集を行い、本研修会に関心を持つ審判資格保有者 17 名が参加しました。

研修期間中は、参加者全員が大学女子連盟主催の地域対抗戦で審判を担当し、JFA より派遣された審判インストラクターによる指導を受けました。

本研修会の目的である「サッカーへの関わり方は、選手や指導者だけでなく、審判員という選択肢もあることを知ってもらうこと」「生涯にわたりサッカーを楽しめる仲間の拡大」については、一定の成果を得ることができました。

今後も連盟と協力しながら、サッカーに関わる人材の育成に取り組んでいきます。

女子学連審判登録者数

2 級	**4** 人	3 級	**226** 人	4 級	**1,092** 人

大学生の審判員

[２級審判員の登用]

全国大会に各地域から推薦された 2 級の女子審判員を登用し、活躍の場を提供するとともに、JFA より派遣された 1 級審判インストラクターの指導を通じて育成を行っています。

一定の評価を受けた審判員には、さらなる活躍の機会を提供し、競技力向上と強化を図っています。

2025 シーズンは、9 名の審判員が年間を通してなでしこリーグ（2 部）において主審を担当しました。

● 活躍する女性審判員

トップカテゴリーの女性審判員は、WE リーグやなでしこリーグを中心に試合を担当しています。

また、J リーグでは山下良美主審、坊薗真琴副審、日本フットボールリーグ（JFL）では一木千広副審が試合を担当しました。

現在、サッカー国際審判員（女子）は、主審 4 名、副審 4 名、フットサル 3 名が登録されています。

[FIFA Women's Futsal World Cup]

斎藤香菜、山本真理の 2 名が、以下のグループリーグで試合を担当しました。

アルゼンチン vs ポーランド：
　第 2 審判 山本／第 3 審判 斎藤
スペイン vs コロンビア：
　主審 斎藤
カナダ vs スペイン：
　タイムキーパー 山本
パナマ vs ブラジル：
　主審 斎藤／第 2 審判 山本

[AFC Champions League Two 2025/26]

山下良美主審、坊薗真琴副審、一木千広副審がトリオとして、以下の試合を担当しました。
Nam Dinh FC（ベトナム）vs Ratchaburi FC（タイ）

[OFC U-19 Women's Championship 2025]

杉野杏紗

※このほか、AFC 主催の各種大会に多くのアポイントがされました。

JFA 障がい者サッカーでの女子日本代表活動

障がい者サッカー各種目において、女子日本代表が国際大会・試合で活躍しています。また、国内でも様々な普及活動が行われています。

東京 2025 デフリンピック　©Haruo.Wanibe/JDFA

国際大会の実績

● 知的障がい者サッカー女子日本代表

エキシビションマッチ	6 月 1 日 日本（神奈川県）	敗戦　● 0-5 大和シルフィードアカデミー

● ブラインドサッカー ® 女子日本代表

さいたま市ノーマライゼーションカップ 2025（親善大会）	2 月 15 日 日本（埼玉県）	勝利　○ 5-0 インド
IBSA ブラインドサッカーワールドグランプリ 2025 in うめきた	5 月 19 日～ 24 日 日本（大阪府）	優勝　決勝：　○ 0-0(PK1-0) アルゼンチン 準決勝：○ 2-0 オーストラリア 予選：　● 0-1 アルゼンチン △ 0-0 オーストラリア ○ 1-0 イングランド
IBSA ブラインドサッカー女子世界選手権 2025	10 月 2 日～ 12 日 インド	3 位　3 位決定戦：○ 0-0(PK2-1) ブラジル 準決勝：● 0-0(PK0-1) イングランド 予選リーグ（グループ B）： ○ 1-0 トルコ ○ 5-0 カナダ ● 0-1 アルゼンチン

● デフサッカー女子日本代表

東京 2025 デフリンピック	11 月 15 日～ 26 日 日本（福島県）	準優勝　決勝：　● 0-4 アメリカ 予選（総当たり）： ● 0-5 アメリカ ○ 6-0 イギリス ○ 3-0 ケニア（不戦勝） ○ 3-1 オーストラリア

● デフフットサル女子日本代表

スペイン遠征（地元クラブチームとのトレーニングマッチ）	1 月 20 日～ 29 日 スペイン	0 勝 1 分 2 敗
デフフットサルワールドカップ 2025	6 月 14 日～ 27 日 イタリア	7 位　順位決定戦（5 ～ 8 位）： ● 1-3 イングランド ○ 5-1 スウェーデン 準々決勝： ● 1-2 ブラジル 予選リーグ<グループ C 1 位>： ○ 4-3 ポーランド ○ 7-0 ドイツ ○ 5-2 ハンガリー

大和シルフィードアカデミーとのエキシビションマッチ

©UCHIDA Kazutoshi

IBSA ブラインドサッカー女子世界選手権 2025

© 日本ブラインドサッカー協会

デフフットサルワールドカップ 2025

©JDFA

©UCHIDA Kazutoshi

© 日本ブラインドサッカー協会

©JDFA

国内普及活動

日本アンプティサッカー協会	女性を対象とした体験会・練習会の開催	
	2月8日 広島県	AMPUTEE FOOTBALL Challenge Camp 2024
	7月26日～27日 広島県	AMPUTEE FOOTBALL Challenge Camp 2025
	10月11日～13日 静岡県	AMPUTEE FOOTBALL Youth&Ladies Next Generation Camp
	12月21日 千葉県	AMPUTEE FOOTBALL Challenge Camp 2025
日本 CP サッカー協会	10月4日～5日 岐阜県	全日本 CP サッカー選手権に女子単独でのチームとして初めて「ESPERANZA なでしこ」が出場
日本ソーシャルフットボール協会	12月21日 千葉県（夢フィールド）	女子選手のためのソーシャルフットボール（フットサル）クリニック「第１回 JSFA GIRL'S FESTIVAL」を開催
日本知的障がい者サッカー連盟	1月26日 静岡県	もうひとつの高校選手権大会同時開催の高等部女子サッカークリニック

.WE LEAGUE あらゆる場面での女性の活躍

WE リーグでは、審判員やスタッフ、また意思決定者の女性登用を推進するだけでなく、試合に関するあらゆる場所での女性の配置を推進しています。実況や解説、中継のディレクター、カメラマンなど、これまで女性があまり関わることの少なかったポジションで、女性が活躍しています。

2025/26 シーズンの試合中継では、2024/25 シーズンまで現役選手として活躍していた方々も解説を担当。競技引退後の新たなキャリアの可能性も広がっています。

2024/25 シーズンまでノジマステラ神奈川相模原でプレーしていた南野亜里沙さん（写真：本人提供）

活動報告

原則 3

健康、安全、暴力の撤廃

JFA ウェルフェアオフィサー制度

ウェルフェアオフィサー制度はサッカー全体に関わるものですが、特に、女子サッカーに関わる各リーグ・連盟で、リスペクト、セーフガーディングにより積極的に取り組んでいくべく検討しています。リスペクトとフェアプレーの精神あふれる環境を醸成し、好ましくない行動や状況においても、気づきを伝え合うことで、"ウェルフェア"環境が守られることを実践しています。

JFA コーチ女子担当は、2021 年の研修会でウェルフェアオフィサージェネラル養成講習会を受講し、2023 年に新規養成・更新をしました。なでしこリーグは、2023 年度より全チームにクラブ・ウェルフェアオフィサーの設置を義務付けました。全日本大学女子サッカー連盟では、全日本大学女子サッカー選手権大会（インカレ）において、学生によるマッチ・ウェルフェアオフィサーを施行しました。

JFA 公式 Web サイト
リスペクト・フェアプレー
https://www.jfa.jp/respect/

JFA .WE LEAGUE リスペクト・フェアプレー

日本女子代表は、FIFA ワールドカップ３カテゴリーすべてを制した最初の国（現在２国）であり、そのすべてでフェアプレー賞お同時に受賞し、勝つこととフェアに戦うことはトレードオフの関係にあるものではなく両立するものであることを証明しています。リスペクトあふれる姿勢で、各大会で愛され応援される存在となっています。代表チームに象徴されるように、リスペクト・フェアプレーは、世界から一目置かれる日本サッカーの重要な価値であり、守り抜いていきたいものです。

2025 年９月の JFA リスペクト・フェアプレーデイズにおいては、各リーグでリスペクト宣言、リスペクトバナー掲出、場内アナウンス、チームの公式 Web サイトや SNS での活動の発信を行いました。また 2022 年より、女子の育成年代の大会（JFA U -18 女子サッカーファイナルズ、JFA 全日本 U -18/U -15 女子サッカー選手権大会）において、リスペクト・フェアプレーを共有すべく、キャプテンミーティングの開催、リスペクト宣言ボードの作成、キャプテンのスピーチなど、リスペクトセレモニーを実施しています。

WE リーグでの実施事項

リスペクト・フェアプレーの宣言実施

- 2025/26 SOMPO WE リーグ 第５節（9/6）の６試合にて実施
- 両クラブキャプテン（代表者）による、リスペクト・フェアプレー宣言

リスペクトフラッグの掲揚

- リスペクト・フェアプレーデイズに関わらず、各ホームクラブにてリーグ旗やクラブ旗と一緒に毎試合掲揚

場内放送でのアナウンス

- ９月中に開催されるホームゲーム全試合での実施

© WE LEAGUE

© WE LEAGUE

JFA FIFA の女子健康・ウェルビーイング・パフォーマンスプロジェクト

さまざまな分野の研究や開発において、女性のデータが存在せず、それはサッカーのパフォーマンスについても同様です。長きにわたり、女性のトレーニングは男性の縮小版として実施されてきました。そこで FIFA の女子サッカー部門は、女性アスリートの心身の特徴、ゲームの特徴を明らかにし、女性アスリートを女性として準備・トレーニングして健康を守ることを進めていくべく、プロジェクトを組んで発信に至りました。今後、さらに研究が進んでいきますので、日本でもこの情報を広げ、みんながアクセスでき活用できるようにしていきます。

FIFA 公式 Web サイト
FIFA Female Health Project Snapshot
https://www.fifa.com/womens-football/fifa-female-health-project-snapshot

JFA.JP 上でも『スナップショット』日本語訳と共に展開しています。

JFA 公式 Web サイト
FIFA 女性の健康プロジェクト
https://www.jfa.jp/women/FIFA_Female_Health_Project/

JFA 女性審判員の産前・産後サポート

● 出産・育児を経た復帰

出産後も復帰を目指す審判員もおり、審判員の選択肢も広がっています。

宿泊を伴う研修会では、お子さんを連れて参加するケースや、試合会場へお子さんを連れて行くケースもあります。より活動しやすい環境整備のために、関係する機関やリーグと共に、今後はさらに踏み込んだサポートを実現していくことが課題です。

● 復帰に向けた休止期間中のサポート

これまでは休止解除後のみサポート対象としていましたが、安心して出産・復帰準備ができるよう、制度を見直しました。

出産後も活動継続を希望する審判員が増えていることを踏まえ、休止期間中であっても、JFA 専属トレーナーからトレーニングのアドバイスを受けることができるようになりました。また、オンラインを利用した研修会の映像共有を通じて、フィジカル面・テクニカル面の両面でサポートを行っています。これにより、復帰後もスムーズに活動へ移行できる体制を整えています。

※休止をしている場合、休止解除をしてからサポートが受けられる

JFA | WE LEAGUE 現役選手の産前・産後サポート

JFA の指導の下、国立スポーツ科学センター（JISS）スタッフによる妊娠期・産後期のサポートに関する包括的な支援体制が整備されています。所属チームや地域の専門家（チームドクター、トレーナー、近隣大学等）が対象選手を支援する際に活用できる制度です。

所属チーム、JFA、JISS のスタッフが選手の抱える課題に合わせてサポート体制を検討する仕組みが構築され、妊娠・出産を経た選手の競技復帰を支えるための基盤として活用できるよう整えられています。

● メディカルチェック

スポーツドクター (内科、整形外科、婦人科) による診療や理学療法士による機能評価を実施できる体制が整えられています。

● トレーニングサポート

妊娠経過や出産状況に応じたトレーニングプログラムを提供できる設備が用意されています。

● 栄養サポート

妊娠期・授乳期の栄養管理や競技復帰に向けた食環境整備について相談できる体制が整備されています。

● 心理サポート

対象選手の心身状態を把握し、必要に応じた心理支援やカウンセリングを提供する仕組みが設けられています。

WE LEAGUE「WE リーグなんでも相談窓口」の設置

WE リーグの継続的な発展のための安心・安全な環境の構築を目指して、リーグ・クラブに関わるすべての人が専門の弁護士に相談できるハラスメント・コンプライアンス相談窓口を設置。

WE LEAGUE 託児施設の設置

WE リーグ参入基準には「授乳室および託児施設を設置すること」という項目があります。
そのため WE リーグの試合開催日にはスタジアム内に託児施設が設けられています。

ファン・サポーターの皆様に安心してお子様を託児施設にお預けいただいたり、一緒に観戦できるという気持ちで試合会場に足を運んでいただくことや産後復帰した選手、クラブ関係者、運営スタッフなど、WE リーグに関わる全ての方の利用を考え設置されています。
2024/25 シーズンではリーグ戦、カップ戦合わせて 118 名が利用。

2024-25 WE リーグクラシエカップの準決勝、決勝では、多くの方にご利用いただき「WE リーグの試合には託児施設がある」ということが少しずつですが浸透してきています。

© WE LEAGUE

WE リーグ公式 Web サイト
2025/26 SOMPO WE リーグ 前半戦 各クラブにおける託児施設の運用について
https://weleague.jp/news/1664/

JFA 0-30・0-40 大会での選手のお子さんのベンチ入り

2024 年 3 月の JFA 第 35 回全日本 O-30 女子サッカー大会、JFA 第 35 回 O-40 女子サッカーオープン大会から、当該チームによりマッチコーディネーションミーティングで共有いただき、チームが責任をもって危険がないように管理するといった条件で、子どもたちがベンチ周辺にいることを可能にしました。

この取り組みは、徐々に地域にも広がっており、2025 年度の予選大会では、九州等でも取り入れられました。

JFA お子さんを連れての審判員研修会参加

宿泊を伴う研修会では、お子さんを連れて参加するケースや、試合会場へ同行するケースもあります。

希望する審判員に対しては、JFA が交通費を負担し、研修会場への同行を可能としました。

また、研修会期間中は JFA が契約している企業からベビーシッターを派遣し、無料で利用できる環境を整えています。

教育と研修

原則4

JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラム（JWLP）

● 第６期を開催

JFA と WE リーグは、2020 年に「サッカー界・スポーツ界を牽引する女性役員･経営層の育成」を目的に、本プログラムを開設しました。

2025 年６月～ 10 月には第６期を開催し 13 人が修了、開講から６年間でこれまで 74 人の修了生を輩出しました。開設当初から掲げている本プログラムの柱は「女性とジェンダー理解」「マインド改革」「経営リテラシーの獲得」の３点です。さまざまな領域で活躍される講師をお招きし、これまで女性が社会の中で置かれてきた立場や役割の歴史をひも解きながら、その結果、女性が抱えやすいと言われている心理的な障壁や内面的な特徴に自ら向き合い、それを乗り越えていく方法を仲間と共に学びます。そして、経営層として必要な実務スキルに加え、サッカーやスポーツの価値を今一度みんなで考え、最終課題の発表につなげています。今年は、第４期生で今年長野 FA の会長となったマキナリー浩子さんからもお話をいただきました。

受講生の所属は、47 都道府県サッカー協会（FA）、J リーグ、WE リーグ、W E リーグクラブ、クラブ代表、JFA コーチ、フットサル選手、JOC、他競技など多岐にわたり、男子サッカー、女子サッカー、フットサル、障がい者サッカー、他競技など様々な垣根を超えたメンバーが共に学んでいるのも、本プログラムの大きな特徴です。ここで得たネットワークをそれぞれの業務・事業に生かし、新しい日本サッカーの未来を生み出すことを期待しています。

全体、あるいは各期毎の交流が続き、様々な情報が共有されています。研修会への OG の参加もありました。大変心強いグループに育ってきています。

第６期は、前期に引き続き FIFA の女子サッカー発展プログラムの一環として実施し、FIFA からの支援と特別レクチャーがありました。世界でも女性リーダーの育成は重要課題の一つです。意思決定層に、女性を含めたさまざまな背景を持った人が参画することは、日本サッカーの成長にとって欠かせません。JFA と WE リーグは、引き続き女性リーダーの育成に取り組んでいきます。

● 全体概要

[目的]

サッカー界・スポーツ界を牽引する女性役員 / 経営人材を育成する。

[主催]

JFA、WE リーグ

[受講資格]

次の事項のいずれかを満たし、今後組織での経営人材を志す女性。

- ９地域 /47 都道府県サッカー協会において、副会長以上の役職に就く者、またその候補者
- WE リーグクラブの経営人材候補者
- その他、サッカー・スポーツ関連団体における経営人材候補者

[研修内容]

- １カ月ごとに週末の集合研修として、４回のモジュールを実施
- 間の学習
- アウトプット：個人課題・グループ課題の発表
- シンポジウム
- プログラム終了後のフォローアップ

JFA 公式 Web サイト
サッカー界での女性活躍推進
https://www.jfa.jp/social_action_programme/womens_empowerment/

▸ プログラム内容

プログラムの柱 ： １ 女性とジェンダー理解　２ マインド変革　３ 経営リテラシー獲得

プログラム構成

E ラーニング・課題図書

経営基礎
- ガバナンス
- 財務
- 人事
- マーケティング 等

講義

マインド変革
- リーダーシップ
- セルフマネジメント 等

スポーツ業界特有の知識
- スポーツ団体のガバナンス
- コンプライアンス　等

女性とジェンダー
- 組織における女性リーダーの存在意義
- 男性型組織の特徴・女性が組織で陥る罠、障壁 等

グループワーク・対話

プロジェクト最終発表

メンター制度

縦・横のネットワーキング

自組織の風土改革・自組織（男性）リーダーのコミットメント

▸ プログラム受講者

※所属・肩書は受講時点のもの

1期生	鷲津裕美	公益財団法人北海道サッカー協会　副会長	山本亜里奈	アルビレックス新潟レディース トップチーム兼アカデミー担当マネージャー
	渡辺典子	公益財団法人埼玉県サッカー協会　副会長	初矢千秋	伊賀くノ一 FC　事務局長
	宮﨑美由紀	一般社団法人佐賀県サッカー協会　副会長	小野寺志保	大和シルフィード　トップチーム GK コーチ
	加藤久美子	長野パルセイロレディース　女子サッカー準備室	巽由香利	日本女子フットサルリーグ　理事
	穴吹侑子	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース　係長	江川純子	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ　事務局長
	小林美由紀	公益財団法人日本サッカー協会　女子委員 ジェフユナイテッド市原・千葉レディース　マネージャー 公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ　理事	手塚貴子	公益財団法人日本サッカー協会　理事 / 女子副委員長
2期生	岸田直美	一般社団法人兵庫県サッカー協会　副会長 AS ハリマアルビオン　代表取締役社長	小室瑞紀	ノジマステラ神奈川相模原　広報・WE リーグ理念推進担当
	片貝仁子	公益社団法人富山県サッカー協会　副会長	北本綾子	オルカ鴨川 FC　GM
	井上有希江	公益財団法人愛知県サッカー協会　理事 / 女子委員長	田中麗美	横浜 FC ニッパツシーガルズ　パートナーセールスグループ次長
	三上尚子	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース　GM	橋本紀代子	大和シルフィード　フロント
	撰朋恵	サンフレッチェ広島レジーナ　強化担当	江崎亜希子	一般社団法人日本クラブユースサッカー連盟　事務局
	柳田美幸	三菱重工浦和レッズレディース	漆間亜美香	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ　管理部部長
3期生	大岩真由美	公益財団法人北海道サッカー協会　理事	船越裕美	株式会社湘南ベルマーレ
	神一世子	一般社団法人神奈川県サッカー協会　理事	清水万理	一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ
	井手祥子	公益財団法人広島県サッカー協会	伊藤由佳	株式会社セレッソ大阪
	山岸佐知子	公益財団法人日本サッカー協会　理事	小亀多佳	公益社団法人日本プロサッカーリーグ
	高橋薫	ジェフユナイテッド株式会社　次長	風間理佐	一般社団法人日本女子サッカーリーグ
	近藤絵梨佳	サンフレッチェ広島レジーナ	安奈希沙	一般社団法人フットサルクラブ SAICOLO（さいたま SAICOLO）　理事
4期生	高砂佳世	一般社団法人兵庫県サッカー協会　副会長	土井恵	株式会社セレッソ大阪　専任部長
	マキナリー浩子	一般社団法人長野県サッカー協会　副会長	浅野住江	株式会社マイナビフットボールクラブ　主任
	三好公子	一般社団法人愛媛県サッカー協会　副会長	斉藤織恵	ニッパツ横浜 FC シーガルズ　GM
	中西朋子	一般社団法人和歌山県サッカー協会　副会長	柴田若菜	一般社団法人日本女子サッカーリーグ　事務局長
	橋本美湖	公益財団法人北海道サッカー協会　理事 / 女子副委員長	井尻真理子	株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ　営業副部長
	山郷のぞみ	ちふれ AS エルフェン埼玉	西村明子	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ　部長
	山本早	浦和レッドダイヤモンズ株式会社	山田博子	一般社団法人全日本女子野球連盟　会長
5期生	中村千浩	公益社団法人栃木県サッカー協会　副会長	富田真凜	株式会社マイナビフットボールクラブ　主任
	川原幸子	一般社団法人長野県サッカー協会　女子副委員長	種田佳織	株式会社スペランツァ大阪　強化育成統括兼アカデミーダイレクター
	木下温子	公益社団法人福岡県サッカー協会　女子委員長	鈴木優子	東京フットボールクラブ株式会社　経営管理本部本部長
	太田明李	公益財団法人愛知県サッカー協会　女子委員	大野緩奈	アビスパ福岡株式会社　主任
	石﨑民枝	一般社団法人札幌地区サッカー協会　副会長	杉江恵	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ　マネージャー
	佐々木初枝	RB 大宮株式会社		
6期生	中川綾子	公益財団法人北海道サッカー協会　理事・女子委員長	筏井りさ	バルドラール浦安　選手
	岡島幸子	富山県サッカー協会　理事・インクルーシブ委員長	平川由美	JFA コーチ
	兼松啓子	公益財団法人愛知県サッカー協会　副会長	深野悦子	公益社団法人日本プロサッカーリーグ　育成部
	風戸南陽子	一般社団法人熊本県サッカー協会　理事・広報委員長	岩崎鼎	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ　経営企画部リーダー
	半田悦子	一般社団法人静岡県サッカー協会　理事	伊藤リナ	公益財団法人日本オリンピック委員会
	座間奈美	INAC 神戸	田村知佳	横浜隼人高等学校　女子硬式野球部
	佐藤夏美	FUKUSHIMA WWW.　代表		

風戸 南陽子 さん

一般社団法人熊本県サッカー協会
理事・広報委員長

サッカーとの関わり　- ロアッソ熊本の誕生 -

もともとソフトボールをやっていたのでスポーツは好きでしたが、大学時代に東京六大学野球のウグイス嬢を務めたこともあり、その頃は完全に「野球寄り」でした。J リーグ元年の 1993 年、テレビ熊本で働いていて、中継スタッフとして横浜フリューゲルス対清水エスパルスの試合を担当しました。その頃は仕事として関わっているだけで、プライベートでスタジアムに足を運ぶことはありませんでした。

転機は 2004 年。熊本に J リーグチームを作ろうという機運が高まり、翌年ロアッソ（当時はロッソ）熊本が誕生しました。取材を通じてその熱気に触れ、面白さを感じるようになり、取材としてだけではなく、サポーターとしてもチームを追いかけるようになりました。まさに「はまった」という感じです。

熊本県サッカー協会広報委員長・理事への就任

熊本地震のとき、サッカー界から多くの支援をいただき、代表選手や監督が被災地を訪れ、サッカーを通じて元気を届ける姿を取材しました。JFA が復興支援として女子の大会「チャレンジカップ」を熊本で開催した際にはアナウンスを担当しました。それが 2017 年。その後もパブリックビューイングなどで協会と関わる機会が増え、2022 年に熊本県サッカー協会の広報委員長、そして理事にと声をかけていただきました。

当初は、理事会の仕組みも協会の組織もよく分かっておらず、広報委員長としても何をしたらよいかも分からない状態でした。正直に言うと、事務局の方々が実際に手を動かしていただいて、委員長としては方針を決めるなど、そういったことを行うのかなと想像していたのですが、実際には予算立てやスケジュール調整まで自分でやっていくことに戸惑いはありました。ただ、熊本県には女性理事が 6 名だったので心強く思っていました。

写真はすべて本人提供

女性リーダーシッププログラムで得た気づき

女性リーダーシッププログラム参加の打診をいただいた際は「私なんかが行っていいのかな」と思っていました。でも、受けてみて本当に良かったです。今回、私と同じく地域のサッカー協会の方やサッカー界のレジェンドと呼ばれる方も参加されていたのですが、レジェンドの方々も、長らくサッカーに関わり続けていらっしゃる方々も、最初から完璧だったわけではなく、分からないながらも、苦しいときにも種を蒔き続けてきたというお話をきき、自信がないからやらない、というのは理由ではないんだな、と感じました。女性理事として、広報委員長として、まず動いてみて、振り返ってみたら種まきだったんだ、と思えればよいのかもしれません。幸いにも、熊本 FA には松下事務局長をはじめ後押しいただける方も多く、自分のアナウンサーという背景を活かしてできることをやっていこうと積極的な姿勢に変わりました。

このプログラムを受けて、「女性」という視点で多くの気づきを得ました。例えば、熊本 FA の広報誌には女性の記事がほとんどありませんでした。今では、女子チームや女性委員の活動を積極的に取り上げるようになっています。また、メンター制度で福岡 FA の木下さんとお話をする機会があったことで、他の FA の女性理事の方との接点を持つことで更に活動のヒントを得られることにも気づきました。

今、北海道 FA からプログラムに参加されていた中川さんから見せていただいた「女の子のためのサッカーガイド」熊本版を作っています（取材後完成、関連記事 p.52）。1 月のサッカーフェスタでは、元なでしこジャパンの鮫島彩さんと丸山桂里奈さんにお越しいただきました。去年は登壇者が全員男性だったので、今年は必ず女性を入れようと思っていました。今後は九州の女性理事同士でつながる場も作っていきたいです。オンラインでもいいので、集まって話すだけでも何かが生まれるでしょう。将来的には行政と一緒に、男女共同参画をテーマにしたイベントも実施できたらという気持ちも湧いてきました。

私のように、サッカー界以外の人でも関わりたい人は多くいらっしゃると思います。サッカー界だけでなく、地域の人も巻き込みながら、楽しくつながりを広げていきたいです。

JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラム受講者の所属内訳 (人)

	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期	第 5 期	第 6 期
47FA	3 北海道、埼玉、佐賀	3 富山、愛知、兵庫	3 北海道、神奈川、広島	5 兵庫、長野、愛知、和歌山、北海道	5 栃木、長野、福岡、愛知、札幌	5 北海道、富山、愛知、熊本、静岡
WE リーグクラブ	3	4	2	4	2	1
なでしこリーグクラブ	2	3	1	1	1	0
J リーグクラブ	0	0	2	1	2	0
日本女子フットサルリーグクラブ	0	0	1	0	0	1
リーグ・連盟	0	2	2	2	1	2
他競技・統括団体	3	0	0	1	0	2
JFA	1	0	1	0	0	1
そのほか	0	0	0	0	0	1

講習内容一覧

			AM	午後
第6期	第1モジュール	6/7（土） 夢フィールド	9:00-10:00　開講ガイダンス 10:30-12:00 受講生自己紹介 / フォトセッション	13:00-14:30 講義①女子サッカーのこれまでとこれから（今井純子） 15:00-16:00 映像：映像の世紀（RBG） 16:30-17:30 懇親ウォーキングフットボール
		6/8（日） 夢フィールド	9:00-9:45　前日のフィードバック 10:00-11:30 講義②「ジェンダーを理解する（前半）」（山口理恵子）	13:00-14:30 基調講演①「リーダーシップ」（山口香） 14:30-15:30 基調講演②「スポーツ界の女性が直面する課題とは」（イラン人指導者 アーザム）
	第2モジュール	7/12（土） JFA ハウス	9:00-9:45　第 1 モジュールフィードバック 10:00-12:00 講義③「ジェンダーを理解する（後半）」（山口理恵子）	13:00-14:30 講義④「人生に『私らしい』選択を」（大滝亜未） 15:00-16:30 講義⑤「自立した自律女性リーダーになる」（マキナリー浩子）
		7/13（日） JFA ハウス	9:00-9:45　前日のフィードバック 10:00-12:00 講義⑥「スポーツビジネスから考える理念を軸にした経営」（高田春奈）	13:00-15:00 講義⑦「ハラスメントケーススタディ」（小林美由紀・山口理恵子）
	第3モジュール	8/23（土） JFA ハウス	9:00-9:45　第 2 モジュールフィードバック 10:00-11:30 講義⑧「ガバナンス・コンプライアンス」	13:00-15:00 講義⑨「アサーティブコミュニケーション」（小柳茂子）
		8/24（日） JFA ハウス	9:00-9:45　前日のフィードバック 10:00–11:30 基調講演③「女子サッカーのあゆみ」（岡島喜久子）	13:00-15:00 講義⑩「WE リーグパートナーシップの価値」（SOMPO ホールディングス株式会社 田中翔）
	第4モジュール	10/18（土） JFA ハウス	10:00-12:00 課題発表（個人）	13:00-15:00 課題発表（個人）
		10/19（日） JFA ハウス	9:00-12:00　課題発表（グループ）	13:00-15:00 シンポジウム シンポジスト： 髙田春奈 伊藤リナ 河野 雅道　神奈川県サッカー協会 会長 七森 有貴　クラシエ株式会社 ファシリテーター：山口理恵子 15:00–16:00 修了式

第 2 モジュールに、JFA アカデミー福島に研修にきていたイランの女性指導者、アーザム・シロウイさんが参加。自国での女子サッカー、女性指導者の直面している状況に関して共有があり、受講生にとっても大きな刺激となりました。

JFA 海外との情報共有

● JFA フットボールカンファレンスで ジェイン・ラドロー氏がプレゼンテーション

2025年1月に熊本で行われたJFAフットボールカンファレンスでは、ジェイン・ラドロー氏による「学びの旅」と題されたプレゼンテーションが行われました。長くアーセナルFCおよびウェールズ代表のキャプテンとして活躍した後、指導者への道にシフトし、ダイレクター、メディカル、マネジメントなど様々な役割を情熱と好奇心を持って担い、新しい学びや人の学びを支援する自身の情熱に気づき、現在の道を進んできた経験が語られ、FIFAやUEFAの促進の取り組みや、進化し成長し続ける女子サッカーの展望も伝えられました。

● JFA/AFC 女性プロライセンスコースで FIFA エキスパートのスーザン・ロナン氏が講義

JFA/AFC女性プロライセンスコースは、FIFAのサポートを受けてスーザン・ロナン氏（アイルランド）を講師として迎え、女子サッカーのトップレベルのトレンド、ヨーロッパでの発展の様相についてプレゼンテーションされました。女性のサッカー参加が禁じられていた子供時代、アイルランド代表としての活躍、指導者転身後のエリートレベルでの経験、指導者としてのフィロソフィー、女子サッカーの成功とステータスの変化が語られました。また、女子EUROのテクニカルスタディについての共有は、受講者にとって有意義なものでした。

● FIFA Female Coach Educators' Development Pathway

FIFAが2025年に開設した女性コーチエデュケーターを育成するコースに、日本からは鈴木木乃実さんが参加しました。

● TDS Global Female Pathway Knowledge Exchange Workshop

FIFAが主催する女子エリート育成に特化したワークショップであり、JFAアカデミー福島から杉山史帆さん、JFAからは宮崎英津子が参加しました。

● AFC Special Elite Youth Online Session (W&M)

AFCがアジア各国の技術・育成責任者を対象に開催するエリートユース育成に関するオンラインセッション。佐々木則夫女子委員長、井尻明U19日本女子代表監督、佐野佑樹JFAコーチ、横道玲香U16/17女子日本代表コーチが参加しました。

● AFC Empowering Women in Football Programme（AEWFP）Edition 1

本プログラムは、AFC Academic Centre of Excellenceが主催し、2025年に新たに立ち上げられたAFC初の女性リーダーシップ育成プログラムです。アジアにおける女性のリーダーシップ強化を目的として設計され、第1期となる2025年は、4月から10月までの約6か月間、全7モジュールにわたり、英語による完全オンライン形式で実施されました。本プログラムには、JFA職員2名が参加し、サッカー界における女性の歴史や役割への理解を深めるとともに、個人・グループワークを通じて、ジェンダー不平等や構造的課題に向き合い、変化を生み出すための視点とスキルを習得しました。

.WE LEAGUE 海外との取り組み

● アメリカ視察

女子プロサッカーリーグとして大きな成功を収めているアメリカ・NWSLのベンチマークを行うため、2025年4月に現地視察を行いました。ワシントン・スピリットでは、トレーニング見学のほか、フットボール部門からビジネス部門まで数多くのスタッフとのミーティングを行い、各部門がどのように成長戦略を描いているのかを学びました。また、試合も観戦し、数多くのサッカー少女たちがファンベースとなっていることを実感しました。

ニューヨークに拠点を構えるNWSL事務局も訪問、コミッショナーのJessica Berman氏、Sporting DirectorのSarah Gregorius氏と会談し、NWSLの成長は女子代表チームの競技レベルの高さ、女子サッカーの競技人口の多さ、アメリカの4大スポーツへの投資の成功事例などが基盤になっていることなどをうかがいました。

© NWSL

● ウィメンズリーグスフォーラム（WOMEN'S LEAGUES FORUM）

世界の女子サッカーの発展のために、世界の主な女子トップリーグが連携し2023年11月に設立されたウィメンズリーグスフォーラム。2025年1月にマドリッドで年次理事会が開催され、イングランドのWomen's Super League（WSL）のCEO、Nikki Doucetが共同チェアに、WEリーグからは理事である大滝麻未が理事に就任しました。

設立の目的は、女子リーグが協働することにより、好事例の共有、女子サッカーの商業的価値の向上、また、女子のプロフェッショナルリーグとして、世界の女子サッカーの環境改善に貢献するために、意見をまとめていくことです。WEリーグのように協会から独立している女子リーグは世界でもまだ数が少ないのですが、ここ数年の女子サッカーの隆盛は飛ぶ鳥の勢いです。アメリカの女子プロリーグであるNWSLは2023年に年間6000万ドル（約93億円）の放映権契約を締結、WSLも年間1300万ポンド（約26億円）の放映権契約を締結しました。また、ドイツ女子ブンデスリーガの14クラブは、プロ化に向けて独自の新団体を設立することを決定しました。WEリーグも世界の女子トップサッカーリーグの先駆けとして、各国と連携を取り、情報を共有し、日本の女子サッカーの発展につなげていきます。

● World Football Summit

WEリーグは、世界最大級のサッカービジネスカンファレンス「World Football Summit（WFS）」において、女子サッカーの発展に寄与した団体として「Female Leader Award for Leading Women in Sport」を受賞しました。WFSは世界60か国の関係者が参加し、サッカーを通じた社会変革を議論する国際的な場で、同賞はフットボール産業に革新をもたらした個人や団体に贈られるものです。アジアの団体としての受賞はWEリーグが初となります。表彰式には理事の大滝麻未が登壇し、リーグ理念を体現する「WE ACTION」やクラブ・パートナー企業との連携による社会的取り組み、入場者数増加といった成果に触れながら、女子サッカーの未来を切り開く決意を語りました。

WEリーグ公式Webサイト
World Football Summitにて「Female Leader Award for Leading Women in Sport」を受賞
https://weleague.jp/news/1706/

WEリーグ公式Webサイト
「Female Leader Award for Leading Women in Sport」受賞の喜びを理事大滝麻未が語る
https://weleague.jp/news/1709/

● 海外女子サッカーリーグビジネス調査・分析レポートを公開

WEリーグでは、欧米の女子サッカーリーグの歴史・現状等をベンチマークし、好事例をWEリーグの戦略や施策に取り入れながら、今後のWEリーグ全体の成長・発展につなげることを目的とし、2025年6月に海外女子サッカーリーグビジネス調査・分析レポートを公開しました。National Women's Soccer League（アメリカ）、Barclays Women's Super League（イングランド）、Liga F（スペイン）、Google Pixel Frauen-Bundesliga（ドイツ）の4リーグを対象とし、リーグ構造や入場者数、収入スキーム、成長戦略などについてまとめています。WEリーグではさらなる発展のため、継続的に海外リーグのベンチマークを行っていきます。

WEリーグ公式Webサイト
調査・分析レポート
https://weleague.jp/pdf/about/management/20250625/250625_05.pdf

WE リーガー研修

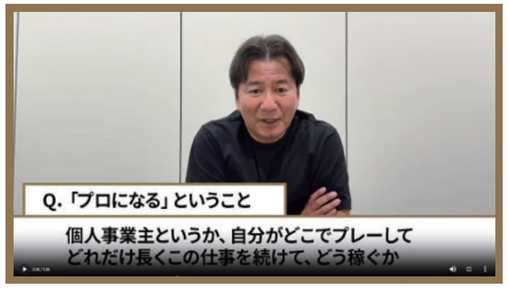
WE リーグでは、シーズンを通じてリーグ登録 1 年目の選手を対象とした「新人研修」を実施しています。クラブへのヒアリングを経て、今シーズンは昨年までの集合型や単発型研修から学習効率を高めるため、e ラーニング形式に統一。

これにより、いつでも・何度でも受講可能となり、第 2 登録ウインドー加入選手や任意ながら特別指定選手と育成組織 TOP 可選手も含め、全員が学習機会を確保できる仕組みを整えました。

今シーズン開幕前の本研修には 68 名が参加し、「開幕前必須講座」では 11 講座に加え、200 文字以上のレポート課題 10 件を全員が完遂。プロ選手としての心構え、リーグ理念、コンプライアンスなど、競技と社会の両面で求められる知識を、選手一人ひとりが自分のペースで深めました。

研修を受講した選手からは、「個の成長がチームやリーグ全体、そして日本女子サッカーの未来を支えることを強く感じた」、「結果を出すことは大切だが、それだけではなく、サッカー以外での振る舞いや人間性を高めることが重要だと学んだ」、「10 年、20 年後、今プロを目指す女の子やクラブ、リーグ関係者のためにも、技術の向上や地域との関わりを全うしたい」といった声が上がりました。

選手たちはシーズン中もお金やスポーツ医学、SNS など多種多様な 13 の講座を受講し、未来に向けて一歩を踏み出しています。WE リーグは、これからも選手の可能性を広げ、女子サッカーの価値を高めます。



© WE LEAGUE

© WE LEAGUE

	必須／任意	講座名	
1	開幕前必須	新人研修オープニングセッション	WE リーグ野々村チェアからのメッセージ
2			WE リーグ宮本副理事長からのメッセージ
3			日本プロサッカー選手会有吉理事からのメッセージ
4		WE リーグ選手としての基礎知識	タイトルパートナー SOMPO からのメッセージ
5			WE リーグの理念・ビジョン
6			WE リーグのビジネス
7			マーケティング戦略
8			映像制作
9			WE ACTION
10		女子サッカーの歴史	FAIR PRIDE
11		アンチ・ドーピング	
12		リスクマネジメント	

	必須／任意	講座名	
13	必須	メディアトレーニング	
14		コンプライアンス	インテグリティ・ハラスメント・相談窓口
15			契約・法令順守
16		スポーツ・インテグリティ	八百長、賭博、スポーツベッティング
17		お金の教養講座	お金の貯め方・使い方
18			ライフプランとお金
19		アスリート SNS 研修	基礎編
20		所得税・消費税の基礎知識	所得税　確定申告の基礎知識
21		女子スポーツ医学	
22		ジェンダーについて	
23		コミュニケーション基礎	会話方法、自己紹介
24			会社訪問
25	任意	メンタルトレーニングの基礎知識	
26		女性サッカー選手における栄養と食事の基本	

活動報告

原則 5

事業開発、サプライチェーン、マーケティング活動

JFA パートナー企業との取り組み

JFA は、パートナー企業とともに、社会課題を起点に共創し、サッカーファミリーや世の中に対してポジティブなインパクトを生み出す取り組みを行っています。

©JFA

●MS&AD カップ 2025

MS&AD インシュアランスグループとしては、2015 年より日本代表戦での特別協賛をスタート。2025 年は長崎にて開催された「MS&AD カップ 2025」に特別協賛しました。

対象試合

11 月 29 日 vs カナダ女子代表
長崎スタジアムシティ（ピーススタジアム）

試合の前週には開催地の長崎市内の小学校 5 校を巡回し、「MS&AD サッカー教室」を開催。
約 170 名の小学生が参加し、福西崇史さん、阪口夢穂さんと一緒にサッカーを楽しみました。

●MS&AD インシュアランスグループ（株）価値共創活動　JFA × MS & AD なでしこ " つぼみ " プロジェクト

中学生女子年代の受け皿となるサッカークラブ設立や運営の支援、事例発信、プレー環境の創出等を目的として、『JFA × MS&AD なでしこ " つぼみ " プロジェクト』を実施しています。

2025 年度は、「福知山ユナイテッド FC U-15 Frau」（京都府福知山市）、「NAGAREYAMA F.C. レディース U-15」（千葉県流山市））を認定チームとして支援を開始しました。

●JFA Magical Field inspired by Disney ファミリーサッカーフェスティバル ” ファーストタッチ ”

女子サッカー普及の取り組みとして、小学生低学年のサッカー未経験の女の子を主な対象とした、親子参加型ファミリーサッカーフェスティバル ” ファーストタッチ ” を澤穂希キャプテンや OG ゲストをお招きし全国 15 会場にて開催しています。

参加費無料で参加者にはオリジナル記念 T シャツをプレゼントしています。

” ファーストタッチ ” とは、小学校１～３年生のサッカー未経験・初心者を対象とした親子参加型のサッカーイベントです。小学生のサッカー初心者･未経験者を対象とした、誰でも楽しめるサッカーフェスティバルです。お子様１名、保護者１名でご参加いただくプログラムとなっています。

©JFA

●JFA アディダス DREAM ROAD collaborated with ANA

©JFA/PR

DREAM ROAD は JFA とアディダスの価値共創プロジェクトとして発足し、2025 年に女子選手を対象とした初のプログラムを実施しました。女子を対象としたプログラムは ANA も協働パートナーとして参加しています。

世界基準の選手育成を目指し、育成年代の有望な女子選手に海外クラブでのトレーニング機会を提供し、心身の成長期にハイレベルな環境を経験することで、日本女子サッカーの強化・発展を促進しています。

初の女子対象海外留学プロジェクト

(男子は 2023 年度から実施済)

留学先はドイツ・FC バイエルン・ミュンヘン女子チーム

(欧州トップクラブ、女子ブンデスリーガ優勝経験あり)

期間：2025 年 8 月 15 日～ 8 月 30 日（約 2 週間）

対象：U-16・U-17 の 4 名

●アディダス・JFA 共同プロジェクト「HER TEAM」

女子サッカープレーヤーの 5 人に 1 人が 13 歳になったタイミングでサッカーを辞めてしまうという課題を解決すべく、ボトルネックとなっている中学生年代の女子サッカークラブの創設支援を JFA とアディダスが連携して行うプロジェクト。初年度の 2020 年からの 5 年間で、全国 88 チームを本プロジェクトによって創設支援し、ユニフォームやメンバー募集のための告知ツールの提供、サッカークリニックの開催や、HER TEAM CUP 等のイベントへの参加などのサポートを提供しています。

©JFA

.WE LEAGUE 共創アクション・プログラム「OUR STORIES」

WE リーグは、WE リーグタイトルパートナーである SOMPO グループと一緒に、WE リーガーや多様なステークホルダーがつながり、「みんな」の力で夢を実現していく共創アクション・プログラム「OUR STORIES」に取り組んでいます。

第一弾のテーマとして「10 代で女子がスポーツをやめてしまう問題」を掲げ、課題解決に向けてさまざまなアクションを推進してきました。

2025 年 12 月に開催した「OUR STORIES未来共創セッション」では、「白ユニフォームに困る」という声を受け、実際のユニフォームの変更に向けた課題解決の具体的なプロセスと共創によって生まれた成功事例を発表しました。また、女子サッカーのみならず、女子スポーツ全体の未来を見据えたセッションを実施し、今後のアクションについて議論を深めました。

©WE LEAGUE

OUR STORIES プロジェクト動画(YouTube)
https://www.youtube.com/watch?v=sMj-7DLPSgc

SOMPO WE リーグ特設サイト
https://sports.sompo-hd.com/weleague

●クラシエ× WE リーグコラボ DE & I※ 研修

WE リーグシルバーパートナー・WE リーグカップ戦タイトルパートナーであるクラシエ株式会社と WE リーグは「① DE & I についての理解を深めて、自分事化する②自身や組織、会社の現在地を客観的に把握すること③それぞれの役割の中で具体的なアクションを考えること」を目的に DE&I 研修を実施しました。

研修では、WE リーグの海堀あゆみ理事が WE リーグの理念や女子サッカーを取り巻く環境について、村松邦子理事が「持続可能な社会と DE&I」など、多角的な視点で話を展開しました。さらに、ブラインドサッカー要素を取り入れたウォーキングフットボールで多様性を体感し、ワークショップで学びを自分事化し今後のアクションを考えました。

DE&I とは何かを頭と身体で体感し、一人ひとりが気づきを得る時間となった本研修。WE リーグはこれからも理念を胸にパートナー企業のみなさまとさまざまな活動を進めていきます。

※多様性（ダイバーシティ）、公正性（エクイティ）、包含性（インクルージョン）の頭文字を合わせた略称

©WE LEAGUE

WE リーグパートナー各社の協賛趣旨（ダイバーシティ & インクルージョン関連事項抜粋）

会社名	協賛趣旨
SOMPOグループ	SOMPO グループは、WE リーグと連携することによって、女性活躍の推進を図るとともに、様々な社会・地域課題の解決に取り組み「“安心・安全・健康”であふれる未来」の共創を目指していきます。
ダイハツ工業株式会社	ダイハツは女子サッカーを応援しています。 大好きなサッカーに、もっと夢中で打ち込んでほしい。 サッカーが大好きな女の子たちに、もっと自由に夢を見てほしい。 幼児・小学生から、高校女子サッカー、なでしこリーグ、そしてプロの WE LEAGUE まで。 ダイハツはそれぞれの地域に根ざす販売会社と一丸となって、 サッカーに打ち込むすべての女性と女の子たちの夢に寄り添い続けます。
株式会社ビーズインターナショナル（X-girl）	選択肢の多様化が進む中、X-girl は WE リーグと共に現代の若い女性が自分らしく生きるための「GIRL'S MOVEMENT」を起こす。 WE リーグの「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」という理念を、ファッション、ライフスタイルの観点から共創していきたい。
クラシエ株式会社	クラシエは、WE リーグの理念「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する。」に共感し、WE リーグと共に「みんなが主人公になる暮らし」の実現を目指しています。
株式会社西原商会	女子サッカーにはサッカー界の未来を切り拓く力があり、選手の皆様が世界へ挑戦し、はばたく姿は、当社の「日本の食を世界へ届ける」という想いとも重なります。西原商会は、食の力で WE リーグと共に歩みながら、女性活躍がさらに広がる社会の実現に貢献してまいります。
DAZN Japan Investment 株式会社	DAZN ならびに DAZN の持つ 360 度のあらゆるチャネルで女子サッカー・女子スポーツの魅力を伝えていきたい。スポーツ文化に、そしてスポーツの力でより豊かな社会を築く
株式会社読売新聞東京本社	読売新聞は、スポーツ報道に加えて、プロスポーツ興行や各種スポーツ大会の開催などを通して、スポーツのすばらしさを伝える活動をしています。2024 年に WE リーグのパートナーとなったのも、その活動の一環です。全国紙のメリットやグループの力を活用して、リーグ全体はもちろん、個々のチームや選手の皆さんの支援に積極的に取り組みます
KPMG コンサルティング株式会社	KPMG は、2023 年に「ソーシャルインパクトパートナー」に就任し、WE リーグの設立意義のひとつである“女性活躍社会の牽引”や、理念である“一人ひとりが輝く社会”の実現に向けて、主に WE ACTION の企画・実行をサポートをしつつ、WE リーグの活動全般を支援しています。
一般社団法人 全国信用金庫協会	女性活躍推進を共通の課題としている信用金庫業界として、設立意義の一つに「日本の女性活躍社会を牽引すること」を掲げている WE リーグの WE ACTION に協賛しています。 全国２５４の信用金庫の応援が「世界一アクティブな女性コミュニティ」の実現に向けて少しでもお役に立てればと考えています。
パーソルホールディングス株式会社 パーソルキャリア株式会社	“はたらく Well-being” 創造カンパニーとしてアスリートの柔軟で多様なはたらき方・キャリア形成を支援。 「WE リーグ」に関わる選手・スタッフへのキャリア支援を通じ、女性のさらなる活躍の場の拡大への貢献とともにグループビジョンである「はたらいて、笑おう。」の実現を推進していく。
株式会社メディアジーン	経済ニュースメディア「ビジネス インサイダー ジャパン（Business Insider Japan）」内の DEI メディア＆コミュニティ「マッシングアップ（Mashing Up）」は、「多様性へのまなざし」や「インクルーシブな価値観」を大切に、日々の業務に活きる気づきや学び、新しい視点を発信しています。「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」という WE リーグの理念に共鳴し、情報発信の力で社会を動かすメディアとして、スポーツ界における多様性の推進を後押しし、未来を切り拓くムーブメントをともに創り出していきます。

活動報告

原則 6

地域における リーダーシップと参画

JFA 47 都道府県サッカー協会の取り組み

一般スポーツ団体向けのガバナンスコードでは、中央競技団体向けとは異なり、組織運営、編成に関する数値目標は挙げられていません。しかし、国内競技連盟（NF）に準じる公共性の高い団体であり、中央競技団体向けのものを参照しつつ、役員等の多様性の確保に取り組んでいくことが重要です。クラブやリーグ、連盟もこれに準じると考えます。

下表では、47 都道府県サッカー協会（FA）における女性役員の人数と割合の内訳を示しています。役員を増やしていくためにも、サッカー界全体で、女性があらゆる場に一定数いて、そのポテンシャルを発揮できる状態になっていることが大切です。JFA では FA に向けて 20%以上となるよう投げかけ推奨しています。

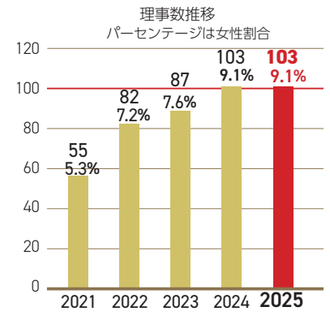
47FA における役員改選は 2 年ごとであり、2025 年改選は 6FA のみで、数字の面では変化はありませんでした。しかし、今年は 47FA に対し、現状を調査、ディスカッションした上で、女性役員割合 25%という目標が提示されました。また、WEPs 年次レポートを作成し、47FA、加盟団体などに共有させていただき、そのことで意識していただく協会、団体が増えてきたと認識しています。2024 年には 47FA 会長が誕生しました。副会長は 12 人、総理事数も年々増加しています。多くの女性理事を配置する FA も増えてきています。一方でまだ 0 人のところは減少傾向にあるものの現状 6FA です。1 人というところが 14FA です。1 人だけではなかなか力を発揮するのは難しいものです。**ぜひ今後に向けてご準備いただければと思います。**

本レポートや研修機会の提供、また好事例（女性役員を増やしたことによる組織内のポジティブな変化など）、この課題の改善に向けた取り組みをさらに共有し、共に取り組んでいきます。

47FA における女性役員の人数と割合

	2021	2022	2023	2024	2025	女性理事数	理事総数	女性割合
会長	0	0	0	1	1	103 [103]	1,137 [1,137]	9.1% [9.1%]
副会長	5	9	10	12	12			
専務理事	0	1	1	0	0			
常務理事	3	4	5	8	8			
理事	47	68	71	82	82			
監事	2	7	7	8	10			
特任理事	6	4	5	4	5			
合計	63	93	99	115	118			

JFA 評議員　3（長野 FA、和歌山 FA、WE リーグ）



女性理事数に対する FA 数の推移

女性理事数	2021	2022	2023	2024	2025	
0	15	12	10	6	5	12.8%
1	13	13	13	14	15	29.8%
2	13	11	13	10	9	21.3%
3	5	3	4	7	9	14.9%
4	0	3	2	4	5	8.5%
5	1	3	3	5	3	10.6%
6	0	2	1	0	0	-
7	0	0	1	1	1	2.1%

女性理事割合に対する FA 数の推移

女性理事割合	2021	2022	2023	2024	2025	
0-1% 未満	15	12	10	6	6	12.8%
1-5% 未満	9	10	13	9	9	19.1%
5-10% 未満	13	12	13	12	12	25.5%
10-15% 未満	8	5	4	9	9	19.1%
15-20% 未満	1	7	2	6	6	12.8%
20-25% 未満	0	1	3	5	5	10.6%
25-30% 未満	1	0	1	0	0	-

地域 FA の取り組み - 北海道 FA - 女性リーダーシッププログラムでの学びの還元

北海道 FA は、2 名の女性副会長のもと、サッカーを通じて女性が輝く社会を目指すなでしこ VISION 実現に向けた取り組みに力を入れています。JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラム（JWLP）には、札幌地区 FA を含めて、北海道から 5 名が参加し、全国の仲間と交流しながら学びを深め、北海道の女子サッカー発展と女性活躍の下地をつくっています。

【元なでしこジャパン・ドイツW杯優勝メンバー 山郷のぞみさんに学ぶ GK クリニック・講演会】

JFA 女子サッカーデー事業は、プログラムでの学びを北海道に還元する機会の一つであり、2025 年は、リーダーシッププログラム参加をきっかけに橋本美湖女子副委員長（第 4 期）が親交を深めた山郷のぞみさんを北海道にお招きし、GK クリニックと講演会を実施しました。クリニックには、道内の GK の女子選手が参加し、熱心に指導をあおぐとともに、女子ユースダイレクターも山郷さんの指導に刺激をいただきました。講演会は、石崎民枝札幌地区 FA 副会長（第 5 期）のあいさつにはじまり、中川綾子女子委員長（第 6 期）の司会のもと、審判員として山郷さんと交流があった大岩真由美副会長（第 3 期）が聞き手となり、鷲津裕美副会長（第 1 期）が講演を締めくくる形となりました。

【女の子のためのサッカーガイド】

主に U-6 の女の子とその保護者を対象として、小学生、中学生、高校生、1 種、シニアそれぞれの年代で女性がサッカーを続けるパスウェイをやわらかく伝えるリーフレットを作成しています。女性リーダーシッププログラムにて、中川女子委員長が紹介したところ、熊本 FA の風戸南陽子広報委員長が本リーフレットに着想を得られ、熊本版女子サッカーガイドが作成されることとなりました（関連記事 p.42）。

HKFA 公式 WEB サイト
女子委員会
https://www.hfa-dream.or.jp/committee/women/

.WE LEAGUE 地域との取り組み

2025 年 4 月には野々村チェア、宮本副理事長が渋谷区役所を訪問し、長谷部健渋谷区長と地域性やスポーツ事情、サッカーグラウンド、女子学生のスポーツ離れなどについて意見交換を行いました。

左から、野々村チェア、長谷部渋谷区長、宮本副理事長　©WE LEAGUE

2025 年 11 月には渋谷区スポーツ協会主催の「渋谷スポフェス」で WE ACTION DAY を実施し、女子プロサッカー選手の魅力を伝える機会を提供しました。

©WE LEAGUE

活動報告

原則 7

透明性、成果の測定、報告

本原則に対する取り組みは、まさにこのレポートです。年次レポートを作成して現状や成果をフォローし、また好事例を共有しつつ、課題に対して一つひとつ粘り強く取り組んでいきます。本レポートを作成して発信していることで、サッカーファミリーの皆さんに情報を届け、各組織の中でご検討いただけたケースが多くあったことを実感しています。本レポートをサッカー界で共有することで、この課題自体への理解を広げるとともに、さらに深めていただき、課題意識を持つ仲間を増やしていきます。

【 関連の取り組み 】

「女性登用の見える化」と各クラブによる「WE STATEMENT」（22 ～ 23、26 ページ参照）

女性活躍推進活動の振り返り（一覧）

	JFA	JFA & WE リーグ	WE リーグ
原則 1	● なでしこ vision ● JFA 理事会 ● JFA 規則：妊娠 / 出産に関わる契約上の不利益の禁止 ● JFA 女子サッカーデー	● WE リーグ開幕 ● なでしこリーグビジョン・ステートメント	● WE リーグの名称とロゴ ● WE リーグの理念とビジョン ● 理念推進のために設定した参入基準 ● WE リーグクレド（行動規範） ● 価値創造ストーリー ● 優勝チームに贈られる「WE リーグトロフィー」 ● 理念推進日「WE ACTION DAY」 ● 「ALL WE ACTION DAY」 ● WE ACTION MEETING
原則 2	● アクセス・フォー・オール宣言 ● サッカーファミリーにおける女性の人数 ● JFA の役員・職員における女性の人数 ● 女性指導者について ● 国際的に活躍する女性指導者 ● 女性審判員について ● 障がい者サッカーでの女子日本代表活動		● WE リーグ・なでしこリーグの役員・職員における女性の人数 ● WE リーグの女性登用の見える化 ● WE STATEMENT ● あらゆる場面での女性の活躍
原則 3	● ウェルフェアオフィサー制度 ● FIFA が女子健康・ウェルビーイング・パフォーマンスプロジェクト発信 ● 女性審判員の産前・産後サポート ● O-30・O-40 大会での選手のお子さんのベンチ入り ● お子さんを連れての審判員研修会参加	● リスペクト・フェアプレー ● 現役選手の産前・産後サポート	● 「WE リーグなんでも相談窓口」の開設 ● 託児施設の設置
原則 4	● 海外との情報共有	● JFA/WE リーグ女性リーダーシッププログラム	● 海外との取り組み ● WE リーガー研修
原則 5	● パートナー企業との取り組み		● 協創アクション・プログラム「OUR STORIES」 ● WE リーグパートナー各社の協賛趣旨
原則 6	● 47 都道府県サッカー協会の取り組み		● 地域との取り組み
原則 7		● 年次レポートの作成	

※競技そのものに関わる項目は除外して記載

女子サッカーTOPICS

●第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025 デフサッカー女子日本代表が銀メダルを獲得

©Haruo.Wanibe/JDFA

2025 年 11 月に、第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025 が開催されました。サッカー競技（デフサッカー男女）は J ヴィレッジ（福島県）を会場とし、男女ともに、デフリンピックで初めてのメダルとなる銀メダルを獲得しました。

●FIFA フットサル女子ワールドカップ フィリピン 2025 フットサル日本女子代表ベスト８

グループステージ第 1 節 フットサル日本女子代表 vs ニュージーランドフットサル女子代表 ©2025 FIFA

2025 年 11 月、女子フットサルにとって初の世界大会となる FIFA フットサル女子ワールドカップがフィリピンで開催されました。須賀雄大監督が掲げたチームコンセプト「憧れと共感」「ハードワーク世界一」のもと、アジア勢で唯一ベスト８入りを果たしました。

●2025 SheBelieves Cup なでしこジャパン（日本女子代表）初優勝

2025 年 2 月にアメリカで開催された 2025 SheBelieves Cup で、当時 FIFA ランキング 1 位のアメリカに 13 年ぶりに勝利（2-1）するなど、３戦全勝で初優勝を飾りました。ニルス・ニールセン監督のもとでの初タイトル獲得となり、また、田中美南選手が大会 MVP に選ばれました。

この大会で招集されたなでしこジャパンの選手 23 人のうち、19 人が海外クラブに所属しており、女子選手が世界で活躍する機会と選択肢が広がっています。

©JFA

田中美南選手（第 3 戦なでしこジャパン vs アメリカ女子代表） ©JFA

●AFC アワード 2025

AFC アワード 2025 が 10 月にサウジアラビアのリヤドで開催され、高橋はな選手が年間最優秀選手賞（女子）、浜野まいか選手が年間最優秀アジアインターナショナルプレーヤー賞（女子）を受賞しました。

高橋はな選手（東アジア E-1 サッカー選手権 2025 決勝大会 韓国 なでしこジャパン vs チャイニーズ・タイペイ女子代表） ©JFA

浜野まいか選手（2025 SheBelieves Cup 第 1 戦なでしこジャパン vs オーストラリア女子代表） ©JFA

●リスペクトアウォーズ 2025 福島県の女子サッカーチーム FUKUSHIMA WWW. が大賞受賞

JFA が 3 年ぶりに実施したリスペクトアウォーズでは、2025 年度に初めて一般投票により受賞者を選定。福島県で誕生したアマチュア女子サッカーチーム FUKUSHIMA WWW. が大賞に選ばれました。サッカーの対戦相手として訪れた他県のチームに対し、東日本大震災の教訓や防災意識の重要性を伝えるなど、サッカーによる地域活性化の一つのモデルとして活動しています。

授賞式の様子（左：今井純子リスペクト委員長、右：FUKUSHIMA WWW. 佐藤夏美代表） ©JFA

女性のエンパワーメント 年次レポート 2025

発行：公益財団法人日本サッカー協会
www.jfa.jp
監修：公益財団法人日本サッカー協会・公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ

本誌の記事・写真・図表・ロゴマークなどの無断転載を禁じます。